

業務完了報告書

ダイジェスト版

令和7年度平和関連施設ネットワーク構築事業共同企業体



東武トップツアーズ株式会社 / 株式会社アドップ



1. 事業概要	P.2
業務の目的・事業期間・業務内容	
2. 業務1 シンポジウムの開催	P.4
第1回平和シンポジウム（令和7年7月6日開催）	
第2回平和シンポジウム（令和7年10月12日開催）	
3. 業務2 県内バスツアーの実施	P.27
第1弾バスツアー（令和7年8月23日実施）	
第2弾バスツアー（令和7年11月30日実施）	
第3弾バスツアー（令和7年12月20日実施）	
4. 業務3 パネルの製作	P.31
5. 業務4 スタンプラリーの開催	P.34
6. 業務5 自主提案	P.36
平和関連施設ガイドブックの制作	
特設WEBサイトの開設	
7. 総評	P.39

事業の目的

沖縄戦の惨禍を人々に伝え平和構築に資することを目的とする県内の平和関連施設が協力して相互の連携を図ることで、県内外の方々に平和について考える機会を創出することを目的とする。

事業期間

令和7年6月13日から令和8年3月31日まで

業務内容

(1) 県内シンポジウム及び発表会の実施

シンポジウム開催概要

- (ア) 開催場所：南風原町立中央公民館（黄金ホール）
- (イ) 開催時期：令和7年7月6日（日）、令和7年10月12日（日）の2回実施
- (ウ) 参加者数：1回目、2回目共200名程度
- (エ) 実施内容：各回において、県と調整をし、各自の平和関連の取組の紹介・講演・パネルディスカッション・児童生徒等による音楽・平和学習発表会を実施。（開催時間は、1回あたり全体2時間30分程度）
 - 1回目：平和関連8施設の館長、学芸員等の関係者によるシンポジウム
 - 2回目：平和関連8施設と連携実績のある児童、生徒、学生、平和ガイドなどによる発表会

(2) 県内バスツアーの実施

バスツアー実施概要

- (ア) 実施回数：合計3回
 - ①平和関連施設北部を中心とした施設訪問（沖縄愛楽園交流会館、ヌチドゥタカラの家）
 - ②平和関連施設中部を中心とした施設訪問（対馬丸記念館、不屈館、佐喜眞美術館）
 - ③平和関連施設南部を中心とした施設訪問（南風原文化センター、ひめゆり平和祈念資料館、県平和祈念資料館）
- (イ) 開催時期：令和7年7月から令和8年2月の間（具体的な開催時期は県と相談のうえ決定）
- (ウ) 実施内容：入館料及び昼食代は参加者負担（バス借り上げによる交通費は無料）で一般募集のうえ、参加者をとりまとめ、バスツアーにより参加者を平和関連施設に案内すること。（各施設での案内等は各施設関係者により対応）

(3) パネルの製作

パネルの詳細

- (ア) 平和関連施設（8施設）を1枚のパネルで紹介（A1、自立式パネル）
 - 個数：10枚（10枚内訳＝8施設＋イベント用2枚）
 - ※各施設で展示用
- (イ) 1枚のパネルで1施設を紹介（A1、自立式パネル）
 - 個数：8枚
 - ※イベント、公共施設又は関係団体から要望に応じた貸出用

(4) スタンプラリーの開催

(ア) スタンプラリー概要

事業期間中に県内平和関連8施設においてスタンプラリーを開催。スタンプ達成者へは記念の賞品を贈呈する。

(イ) 開催時期：令和7年7月から令和8年2月の間（具体的な開催時期は県と相談のうえ決定）

(ウ) 平和関連施設8施設にスタンプを設置する。

(エ) スタンプ達成者への賞品の準備8施設×20、合計160個（1個あたり500円から1,000円程度で沖縄県産品、かつ長期間保存が可能なもの）

(5) 自主提案

(ア) 自主提案事業の企画、運営、管理

(イ) その他、自主提案事業の調整等に関すること

平和関連施設

ヌチドウタカラの家

所在地：国頭郡伊江村字東江前2300-4
開館時間：9：00～17：00
休館日：水曜（年末年始は除く）



南風原文化センター

所在地：島尻郡南風原町字喜屋武257
開館時間：9：00～18：00
休館日：水曜・12月29日～1月3日



沖縄愛楽園交流会館

所在地：名護市済井出1192
開館時間：10：00～17：00
休館日：月曜・祝日・年末年始



ひめゆり平和祈念資料館

所在地：糸満市字伊原671-1
開館時間：9：00～17：25
休館日：年中無休



佐喜真美術館

所在地：宜野湾市上原358
開館時間：9：30～17：00
休館日：火曜・旧盆・年末年始



沖縄県平和祈念資料館

所在地：糸満市摩文仁614-1
開館時間：9：00～17：00
休館日：12月29日～1月3日



対馬丸記念館

所在地：那覇市若狭1-25-37
開館時間：9：00～17：00
休館日：木曜・年末年始



分館

八重山平和祈念館

所在地：石垣市新栄町79-3
開館時間：9：00～17：00
休館日：月曜・12月29日～1月3日



不屈館

所在地：那覇市若狭2丁目21-5
開館時間：10：00～17：00
休館日：月曜・火曜・年末年始



業務1

シンポジウムの開催

第1回平和シンポジウム（令和7年7月6日開催）

第2回平和シンポジウム（令和7年10月12日開催）

第1回平和シンポジウム

開催日 令和7年7月6日（日）

開催場所 南風原町立中央公民館黄金ホール

開催時間 14:00～16:50

参加者数 227名（事前申込201名中163名来場、当日来場者64名）

オンライン参加者数 107名（事前申込数171名）

プログラム構成

■主催者挨拶

沖縄県知事 玉城 デニー

■オープニングアクト

ネーネーズ 「平和の琉歌」・「黄金の花」

■第1部 8館の代表者による取組み紹介

①沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子

②ヌチドゥタカラの家：謝花 悦子、渡嘉敷 紘子

③佐喜眞美術館：佐喜眞 道夫

④不屈館：仲本 和彦

⑤対馬丸記念館：嶋袋 寿純

⑥南風原文化センター：保久盛 陽

⑦ひめゆり平和祈念資料館：普天間 朝佳

⑧沖縄県平和祈念資料館：大城 友恵

■第2部 パネルディスカッション

テーマ 1 戦後80年の節目として、各館で取り組んでいることで特に今年、抱えている課題は何か、またそれら解決は、各館で連携することはできるか

テーマ 2 沖縄戦の記憶の継承と平和の発信について

・進行役：対馬丸記念館館長 平良 次子

・パネリスト：①沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子

②ヌチドゥタカラの家：謝花 悦子、渡嘉敷 紘子

③佐喜眞美術館：佐喜眞 道夫

④不屈館：仲本 和彦

⑤対馬丸記念館：嶋袋 寿純

⑥南風原文化センター：保久盛 陽

⑦ひめゆり平和祈念資料館：普天間 朝佳

⑧沖縄県平和祈念資料館：大城 友恵

■質疑応答

質問 1 「平和関連施設と学校との関わりについて、今まで以上に繋がりや連携を取るために必要なことは」

質問 2 「若い世代への平和継承への思いと、親世代、若い世代にできることを語っていただきたい」

質問 3 「戦争の話は怖くて聞けないという方に対し、どのように平和を考えてもらったらいいでしょうか」

質問 4 「ニュースなどを見ていると、県外のメディアでは沖縄戦についてあまり報道されていないように感じますが、県外の方に沖縄戦についてもっと知ってもらうためにはどうすればいいと思いますか」

■閉会挨拶

地域外交統括監 小渡 悟

司会・進行 フリータレント 東 由希恵

開催チラシ（表面のみ作成）

OKINAWA PEACE SYMPOSIUM
第1回
平和シンポジウム開催

みんなで継承しよう。

沖縄戦の記憶 沖縄のこころ

— 8館と一緒に考える —

伝えるべきは、沖縄戦の記憶と沖縄のこころ
友だちや家族と話すことが、継承のはじまり
県内8つの平和関連施設が集い、平和について考えます
あなたが感じたように、きっとみんなも感じるはず

OKINAWA NO KOKORO

2025.7.6 (日)
14:00 ▶ 16:45 (13:30開場) 手紙通訳が入ります。

参加無料

南風原町立中央公民館 黄金ホール
沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武236

※会場の駐車スペースには限りがあります。できるだけ乗り合わせでお越しください。

登録者 県内8つの平和関連施設館長、学芸員ほか。
●【司会】フリータレント/高由希菜氏 ●【オープニングアクト】民謡グループ/ネーネーズ

プログラム
【オープニングアクト】民謡グループネーネーズによるステージ
【第1部】平和関連施設の取り組み紹介
【第2部】パネルディスカッション

お申込みはQRコードから
オンライン配信あり(視聴には申込みが必要です)
<https://forms.gle/yccp2PDEdz9g2jt37A>

民謡グループ
ネーネーズ

 沖縄県立中央公民館館長 上原 陽子 氏	 平和関連施設 沖本 邦彦 氏	 沖縄県立中央公民館館長 北川 新治 氏	 スフィア・オキナワの館長 新花 陽子 氏	 平和関連施設 中良 次子 氏	 平和関連施設 大塚 友香 氏	 平和関連施設 宮野 美津夫 氏	 平和関連施設 保久 健 氏
----------------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	----------------------

沖縄県
Okinawa Prefecture

主催：沖縄県/平和・地域外交推進課
協力：沖縄・平和と人権博物館ネットワーク

平和関連施設
ネットワーク事務局事務室
〒900-0015 那覇市久茂地1-12-12 ニッセイ那覇センタービル10階 東武トップアーツ株式会社 沖縄支店内

TEL.050-9001-9778
受付時間：平日 9:30～17:30 (土日祝を除く)

開催チラシ発行枚数：1,500枚

配布・案内箇所：沖縄県庁内、平和関連施設8館、県内小中高大学、各観光協会、平和ガイド関係者、
県内ホテル連盟、県内バス会社、那覇市内ポスティングなど

新聞広告掲載：令和7年6月29日（日）沖縄タイムス、琉球新報、八重山毎日新聞、宮古毎日新聞

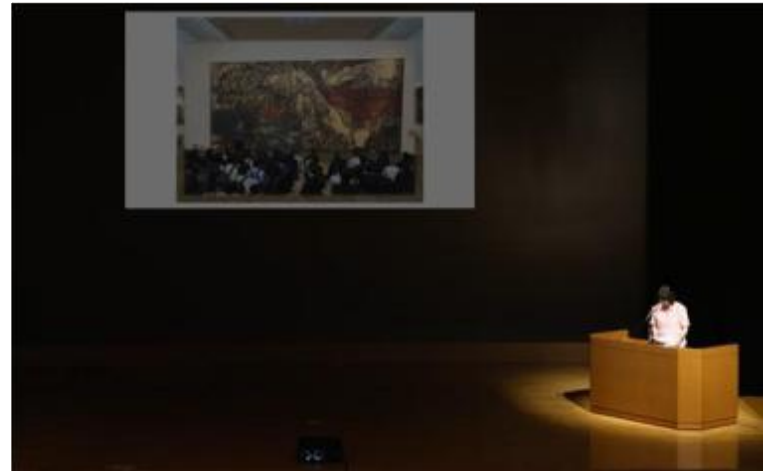
参加受付期間：令和7年6月23日（月）～7月5日（土）

オープニングアクト

第1部 8館の代表者による取組み紹介



沖縄民謡グループ ネーネーズ



第1部 8館の代表者による取組み紹介

第2部 パネルディスカッション



進行役 平良 次子
(対馬丸記念館)



第2部 パネルディスカッション



ヌチドゥタカラの家
謝花 悦子



沖縄愛楽園交流会館
鈴木 陽子



佐喜眞美術館
佐喜眞 道夫



対馬丸記念館
嶋袋 寿純



不屈館
仲本 和彦



南風原文化センター
保久盛 陽



ひめゆり平和祈念資料館
普天間 朝佳



沖縄県平和祈念資料館
大城 友恵

第1部 各館の取組み紹介

不屈館

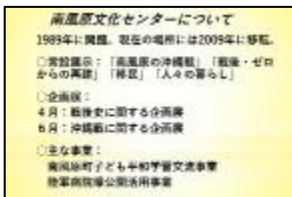
発表者 仲本 和彦



.....

南風原文化センター

発表者 玉城 佳奈



.....

ひめゆり平和祈念資料館

発表者 普天間 朝佳



.....

沖縄県平和祈念資料館

発表者 大城 友恵



.....

第2部 パネルディスカッション 1/3

テーマ ① 戦後80年の節目として、各館で取り組んでいることで特に今年、抱えている課題は何か

またそれら解決は、各館で連携することはできるか

テーマ ② 沖縄戦の記憶の継承と平和の発信について

【進行：平良 次子】

皆さん、こんにちは。お忙しい中たくさんお集まりいただきありがとうございます。まず、本日を迎えるにあたりですね、こちらに、並んでおります8館のメンバーで、実は数年前から沖縄県にある平和資料館、沖縄戦や人権問題に取り組んでる施設の、職員同士で集まって、仲間として、心強く思えるように仲間作りをしようという話がありました。戦後80年を迎えるにあたり、心強く思う仲間たちと、ネットワーク作りという風にして、今年の2月9日に沖縄平和と人権博物館ネットワークというのを立ち上げました。時々集まって課題を話したりできればいいな、仲間として頑張っていくという決意を一緒にできればいいと思っておりましたが、この度沖縄県の方がバックアップしていただきまして、このように立派なシンポジウムを開催し、たくさんの方々に各館からのメッセージや、色々なお話が届けられること、本当に良かったと思っています。ここにいると、安心感というか、みんなそれぞれ頑張っているところなので、勇気をもらえるなと思ってるのは私だけでしょうか。はい、対馬丸記念館の平良です。今日は時間おせおせではありますが、頑張っていきたいと思っています。

第2部のパネルディスカッションでは、2つのテーマに絞ってお話を進めていきたいと思っています。まず最初のテーマですが、今年ですね、戦後80年という節目ということもありますが、ここ最近の、それぞれの館はそれぞれのテーマで、頑張っているところなんです、特に今年取り組んでいること、それから最近の話題などを紹介していただきたいなと思っています。まず最初に、すぐお隣の南風原文化センター、保久盛さんからお願いいたします。

【南風原文化センター：保久盛 陽】

はい、こんにちは。このディスカッションから登場させていただいております。南風原文化センターの学芸員の保久盛と言います。よろしく申し上げます。私たちの方も、今現在、先ほどの時間で玉城学芸員からもお話があった通り、戦後80年ということもあって、例年やってますけれども、企画展をやる中で、戦後80年という事で、メディアも通して、体験者からお話を聞くことがなくなっていくことも、皆さんも周知の事実かなと思っています。また体験者の話を聞いてきた私たちだったり、皆さんもそうだと思うんですけど、今後そうした体験をどう伝えていけばいいか、ということがやっぱり悩んでいるところもあるのではないかと。そうしたところ、そういった状況だからこそ、今まで置き去りというか、今まで確認できなかった、聞けなかったという、沖縄戦に関する疑問とか、そういったものがないかっていうことで、『今更聞けない沖縄戦』というタイトルで企画展を開催した次第です。こうした質問を集めて、Q&A形式で、回答を展示しているわけですけども、こうした1つ1つの小さな疑問だったり、大きな疑問もあると思うんですけども、こういった疑問を解決していくことで、また新たに、平和の継承、沖縄戦の記憶の継承であるとか、平和への思いを新たに、そういったことに繋がってほしい、きっかけの1つにして頂けたらいいという風に思って、今回、そういった企画展をした次第になっております。以上です。

【進行：平良 次子】

本当にすいません、大変大急ぎなのですが、すぐ隣の南風原文化センターで今企画展をしていますということでした。『今更聞けない沖縄戦』、子供も大人も勉強になるところだと思います。続きまして、今、80年目に企画展をしています。対馬丸記念館からお願いいたします。

【対馬丸記念館：嶋袋 寿純】

対馬丸記念館の嶋袋です。先ほどの館の紹介で少しお話ししました今回の企画展、『海の戦争を忘れない』、皆さんの配布資料にありますかね。こちらのチラシでも企画されている通り、当館では、対馬丸以外の戦没した船の企画展を行っております。戦時中、対馬丸以外にもたくさんの船に、沖縄県出身者が乗船して沈没した船がたくさんありまして、その紹介を企画展で行っております。また、3回講演を行う予定で、次の講演は7月12日にあります。沖縄戦は、地上戦のイメージが強いんですけど、実際にこの海で亡くなった、命を落としてしまった人が多く、犠牲が大きいというのが現状で、太平洋戦争中、民間の船舶が、1万5000人、5000隻沈没し、たくさんの方が亡くなりました。そして、遺骨が現在も戻ってこないというのが状況です。この危険なこの海の中で、対馬丸含め、多くの船が疎開するために、そして故郷に戻るために船が出たんですけど、逃げ場のない海で、たくさんの方が、民間の人々が亡くなったということ、この企画展で伝えたいと思います。また、この船の情報ですけど、現在も不明瞭な点が多いので、皆さん、何か船舶の情報がある方がいましたら、記念館にご提供のお願いを呼びかけております。以上になります。

【進行：平良 次子】

はい、ありがとうございます。補足ですが、今、対馬丸記念館は対馬丸記念館という名前で、対馬丸以外の船、たくさん犠牲になった船があるんですけど、なかなか知られていないということで、対馬丸記念館でやろうということになって、今展示会をしています。これは、実はひめゆり平和祈念資料館に学びました。ひめゆり平和祈念資料館が10周年の時に、全学徒展をやったんですね。それは、他の学徒の犠牲もあるから、それも紹介しようということだったと思います。たくさんの方々の記念館は建てられないので、そういう象徴的なテーマで何かできたらということかなと思っています。

引き続き、今リニューアルの計画があるという沖縄県平和祈念資料館、よろしく申し上げます。

【沖縄県平和祈念資料館：大城 友恵】

沖縄県平和祈念資料館ではですね、やはり先ほどから出てますけれども、戦争体験者が減少していく中で、今後どうやってこの若者たち、特に修学旅行生なんか我々の入館者の6割を占めておりますので、そういう方々をどう心に響くような展示をしていくかというところが、やっぱり戦争体験の次世代への継承というところを考えた時に課題だと思っています。平成6年度に、外部有識者による監修委員会を立ち上げていて、今その展示のリニューアルについて検討を進めています。令和7年1月に基本構想を取りまとめている、今現在基本計画の素案、策定をしてパブリックコメントというのを実施している最中です。そのパブリックコメントを終えて県民意見を反映した上で8月中の策定を目指しています。県民個々の戦争体験を結束して発信するという旧資料館からのその基本的な展示の姿勢は引き継いで、沖縄戦の教訓と平和への発信をしていくという基本理念も引き継いだ上で、新たな展示リニューアルにつなげていきたいという風に考えています。

【進行：平良 次子】

はい、ありがとうございます。どんどん進みますね。沖縄愛楽園交流会館から、最近の動きをお願いいたします。

【沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子】

はい、沖縄愛楽園交流会館です。先ほどの紹介のところで、沖縄県平和祈念資料館で戦争遺跡の紹介画像に、愛楽園の水タンクが写っていたんですが、実は、戦後80周年の記念で、東京にあるハンセン病資料館の方が、愛楽園に残っている戦争遺跡を、拓本を取りたいということで、高さ3.5m以上、直径2m以上の水タンクで、桜のクレパス、黒いクレパスを使って、拓本取ったというのは、80周年の協力事業っていうことになっています。私どもの方は、皆さんのお手元に、沖縄愛楽園のその1975年、『命の記憶』という写真展やっています。チラシがあると思うんですが、今年の一番大きな企画展っていうのが、今から50年前の隔離が非常に厳しくて、もう見えなようにされて、隔離されてという園の1人1人を撮影した、鈴木幹雄さんっていう写真家がいまして、今は元写真家という言い方してんですけど、その方の写真を50年後の今年、写真集を発刊し、その記念で写真展をしています。なぜ今年したのかっていうと、戦後80年というのはもちろんですが、戦後80年というのは、交流会館を運営している自治会にとっては、自分たちの代表を選挙で選ぶようになってからの80年なんです。だから、自治制になった自治会の80周年。交流会館も開館10年。鈴木幹雄さんが愛楽園の写真を撮って50年という節目という事で、この写真展の企画をしました。毎年毎年、年に2回3回と企画展やってるんですけど、節目がなくてもやっていることは同じかなと思っています。ただ、節目としては、やはり大きなことが、企画としてはあるということです。さらに、50年後、50年の前の写真展が行われるんですけど、この50年経って鈴木幹雄さんが写真は撮ったけども公開しないで50年経った今、40前の、まもなく40歳になる若い写真家が、愛楽園の写真を撮っています。こちらの方は、昨年企画展で展示し、写真展やっています。その方がさらにその昨年から発展させたものを京都で4箇所同時開催で写真展をやりました。これから今年度考えているのが、その沖縄への凱旋っていうことを考えておまして、いつもはヤンバルへ来てほしい、見に来てほしいですけど、今度はヤンバルから出ていこう、1回京都に出たものをもう1回沖縄に凱旋に戻ってきて、それをもう1回今度は那覇とか沖縄市とか、南部、中部に出て行きたい、これからは、愛楽園の交流会館で企画展をやる意味は、もちろん揺るがないけれども、さらに出ていく、できれば沖縄の県内、沖縄県外まで出て行きたいという風に今考えています。

【進行：平良 次子】

沖縄県の平和祈念資料館、これからリニューアルということで、みんな応援していますので、期待したいと思います。

次に、テーマの2番目なんです、それぞれの館が取り組んでいますが、『沖縄戦の記憶の継承と平和の発信』について、どういう活動と言いますか、どういう思いでやっているかということをお聞かせしたいと思います。まず最初に、ひめゆり平和祈念資料館からお願いします。



進行役 平良 次子
(対馬丸記念館)



南風原文化センター
保久盛 陽



対馬丸記念館
嶋袋 寿純

第2部 パネルディスカッション 2/3

【ひめゆり平和祈念資料館：普天間 朝佳】

2つありまして、1つは、戦争体験者が本当にいらなくなっている時代で、戦争体験を直接聞くことが難しくなる時代ですが、体験者なき後、継承をどうしていくかがとても大きな社会的な課題だと思っています。そのような中で私たちのような平和資料館、人権博物館、あるいは、沖縄県史とか、各市町村史には、膨大な体験者の証言記録があります。その形態も、文字だったり、音声だったり、映像だったり、様々な形態があって、これからはこの体験者が残した遺産、それを大事に活用しながら継承していくことがまず大事になって1つ思っています。もう1つは、主体的で、能動的な平和の新しい学びの取り組みです。私たちの資料館のリニューアル、好評ですが、展示を見たり、人から話を聞くだけというのはどうしても受け身的になってしまいがちだと思います。若い世代の皆さんにもっと戦争と平和の問題を自分事として考えてもらうためには、ワークショップとかフィールドワークとかというような手法を取り入れた、参加型の、学びに取り組んでいく必要があると思います。実際、10月の第2回シンポジウムで、詳しく、私たちの資料館からまた報告あるんですけど、公立高校生の皆さんと一緒に取り組んでいる、高校生が同世代に伝えるためのワークショップという取り組みは、これは、高校生の皆さんに沖縄戦を伝える側になってもらう、ガイドを展示してもらうという形態を通して、沖縄戦の学びを深めるという取り組みですが、それだけじゃなくて、もちろん伝える技術も身につくし、何よりも自分たちが沖縄戦を伝えていくんだという自覚に繋がっていると思います。この話はよくあちこちでしてんですけど、実際生徒たちが、自分のクラスメイトとか友達にガイドをしている様子を見ると、めっちゃとか、何々とか、若い世代ならではのですね、言葉遣いでガイドをしていて、本当に生き生きとガイドをしていて、聞いている方も同じ世代なので、気楽に質問もするし、自分たちで言うのもなんですけど、めっちゃいい取り組みだなと思っています。

【進行：平良 次子】

ありがとうございます。地域の子供たちと繋がるっていうんですね、子供たちが、出入りできる施設目指したいですね、という風に思っております。ひめゆり平和祈念資料館さんも、また、後で詳しく、10月開催のシンポジウムで話ができるということです。では、続きまして、不屈館の、仲本委員からお願いいたします。

【不屈館：仲本 和彦】

はい、今普天間館長からもありましたけれども、証言記録。私もその沖縄戦の記憶を継承していくために、今後はますます、物を残していくってことが大事かなと思います。記憶というのは、個人の頭の中とか胸の中とかで収まっていますけど、それを社会全体の沖縄戦全体の記憶、社会の記憶として50年先、100年先、300年先、こう継承していくためには、物として残すってことが大事かなと思ってまして、そういう意味では、やっぱり証言記録という形で記録として残していったってというのは、非常に大事なことだと思います。今、戦争遺跡が注目されて、それを残していくっていうのもありますけれども、不屈館としては、資料、手紙とか、手記とか、そういう紙の資料とか、そういうものを今後どうやって残していくのか。結構、この物を残していくっていうのは、保存環境も必要ですし、資料の整理も必要ですし、ものすごくその手間がかかる、お金もかかるということで、それをどういう風にこう継承していくのかっていうことを、考えているところです。

【進行：平良 次子】

はい、ありがとうございます。皆さん、資料館、博物館ですので、物を残すということ、やはり予算がかかったりとか、収集も大変ですけども、この記憶がなくなっていくので、記録でしか私たちはもう学べなくなるという意味では、記録を残すっていうことが非常に重要になってくるかということ各館、もしかしら共通かなと思いました。はい。続きまして、ヌチドゥカカラの家からお願いいたします。

【ヌチドゥカカラの家：謝花 悦子】

私は戦前から生まれている人間です。戦争を体験した昭和13年生まれですけども、戦争準備から全部関わってきた人間の年齢ではありますけども、戦争準備に日本の国が沖縄までどういうことをやったかということ全部覚えております。壕を掘りなさい、避難をしなければ、戦争はこういことだと。全く今の時代には通じないような時代の昭和の生まれです。ですから今の状態を見ていて何が大事で、何が必要かというようなことを時代的に随分変わっているような気がしますので、現在私は昭和の初めの人間です。こういう時代で、今日の科学的便利な世の中を見て驚いているところです。ですから今現在に生まれ、政治や教育の立場におられる方々が、戦前の時代と今との比較をすると、何が大事かということ、これからの、戦後生まれの若者たちに教育をしてもらう必要があるのではないかなというお声の言い分があります。ですから、阿波根昌鴻と共に、今日まで来ました。明治の人たちの時代、大正昭和の時代の比べてみると、とんでもない、考えられない便利な今になっているところで、抜けることはないのかなということ、年齢は思うようになっております。だから今日の、今回のこの会合が、いかに私に大きな勉強をさせて貰ったかということ、ありがとうございます。ですから、もう人生終わりですけど、それからよく、戦前、戦中、戦後、またはこれからということ勉強してもらって、武器のない資材を目的に、これから努力する方が良くないかなと思っております。取り留めありませんけど、年齢とって見逃してください。

【ヌチドゥカカラの家：渡嘉敷 絢子】

謝花さんは昭和13年生まれです。今も第一線で資料館に見学に来られた方々から、まさにその一問一答に答えるような形で質問に答えるという活動を今なお毎日されています。謝花さん自身の体験をまた記録に残そうということでインタビューをして、小さな冊子が、もうすぐ発行できると思います。関係者にはもう配られているんですけども、そうした形で記憶を記録として残す、それをまた自分たちの記憶につなげていく、そうした活動をヌチドゥカカラの家として行っています。

【進行：平良 次子】

ありがとうございます。伊江島で、謝花さんがですね、多くの人が集まった時に、阿波根昌鴻さんのことをたくさん覚えてらっしゃる方がいるので、まだ生きてますっていうお話をしていて、謝花さん心配ないです、皆さん覚えてますから、大丈夫ですから、終わりじゃないですよ。はい、ありがとうございます。それぞれの館の役割とか展示してる内容が違うのですが、何かこう伝えようとしてる、継承しようとしてることは似てると思いますが、今の発表を聞いて、他の館からいかがでしょうか？ 佐喜真館長よろしくをお願いします。

【佐喜真美術館：佐喜真 道夫】

佐喜真美術館には全国から高校生がたくさん来るんですね。学校の先生も一緒にたくさん来ます。そういう人たちと話をしてると、恐ろしいぐらいに戦争の事を知らない怖い感じがします。しかし、『沖縄戦の図』と大きな絵がありますが、その絵の前で沖縄のお年寄りが話す話っていうのは、これは凄まじいですよ。60年、70年前の体験談を語っておられるわけですが、まるで昨日のことに話すんですね。その沖縄の人々の、地上戦の体験をした人たちの戦争の記憶の出し方って言いますが、それにはびっくりします。毎回びっくりします。そういうものを元にですね、沖縄戦を研究してる研究家の先生たちが、かなり激しい、積み上げの学問をされてますよね。そういうことを沖縄タイムス、琉球新報、ジャーナリズムっていうのは、的確に報道してくれる。それを私たちが読んで、沖縄戦に対する認識を日々深めているわけですが、そういうこと考えますと、その沖縄戦の記憶というのはですね、そう安々となくなるものではないと私は確信しています。さらに言うならば、沖縄ではですね、死んだ人の魂が蝶になって帰ってくるという感覚って言いますが、文化もあります。そういうものを大事にしながらですね、沖縄戦を継承していくならば、そんなに沖縄戦っていうのは、むしろ日本全国を建て直すぐらいの迫力を持った文化を形成できるのではないだろうか、私は思っています。そこで、ヌチドゥカカラという言葉ですが、ヌチドゥカカラという言葉について私深く考えたのはですね、私がコレクション、ケーテ・コルヴィッツというドイツの作家がいますけども、ケーテ・コルヴィッツは平和指導っていうものを、単なる戦争反対にしようと考えてはいけません。平和指導っていうのは、全人類同等に見出したのだと。人類は必ず色々な苦勞をするであろうと。必ずその知恵にたどり着くと思う。そういう知恵にたどり着いた時に、この地上から一切の戦争は消えていくでしょう。私はそれを確信して死んでいきました。なんとですね、ケーテは、ナチのヒトラー、弾圧を続けながらそういう言葉を発するんですね。驚きましたよ。それでその学生時代に読んでですね、これ広げればまるでヌチドゥカカラを言ってる。ヌチドゥカカラを具現化すれば、全人類の命を平等と見出しうさうと、いう考えで私はそのヌチドゥカカラというものをですね、絵にしてくれた。で、貸し借りしてくれた、丸木さんの絵を、大変大事な作品だと思って、10年かけて美術館を作ったわけでございます。そういう意味では、丸木さんの絵の前で人々が語る、語り口を聞いてますのでね、その確信たるや、その刻みの深さっていうのは、凄まじいものになる。だから沖縄の戦争の記憶っていうのは、大変な岩盤のようなものだとは私は考えてます。

【進行：平良 次子】

ありがとうございました。今お話ありましたように、特に今年は新聞テレビがたくさんの証言者を集めて、まだまだだか、これでもかっていうぐらい、証言を掘り起こしてくれてます。びっくりするぐらいの証言がまだまだ出てきている。そういう意味で、佐喜真館長がおっしゃったように、沖縄戦の記憶がそう簡単に消えるものではないという、本当に、感じています。はい、これまでの継承と平和の発信について、少しずつお話ししていただきましたが、何か他に付け加えらるか質問とかありますか？ はい、対馬丸記念館をお願いします。

【対馬丸記念館：嶋袋 寿純】

これから次世代にこの平和を継承していくためには、やっぱり証言が大事だと思っています。例えば、対馬丸事件は、絵本や映画、アニメの映画など、お話もあるんですけど、この対馬丸が沈んだシーンを見た人、檀原丸（かずらまる）に乗っていた、対馬丸が沈んだ状況を、次世代に繋ぐ、それも絵本にしたり活字にしたりするのも、この証言、次世代に繋ぐことだと思います。

ひめゆり平和祈念資料館
普天間 朝佳不屈館
仲本 和彦

第2部 パネルディスカッション 3/3

【進行：平良 次子】

はい、直接の体験者じゃなくてもそれを見たとか、聞いたっていう記憶が残っているのも残しておきたいということですね。

継承と平和の発信っていうのは各館でのテーマだという話をしましたが、中でも佐喜眞館長のところでアートを通してっていうことなんですけど、それは継承、世代で継承ではなくて、訪ねてくださる方。例えば、外国人とかもいらっしゃるという話が先ほどありましたが、その伝えるということで何かありますか？例えば、絵を見てですね、よく聞きます。説明はないんですけど、言葉で伝えたり、絵で伝えたりする中で、訪れた方々の感想の中に伝わったっていう風なことを感じることがありますか？

【佐喜眞美術館：佐喜眞 道夫】

はい、それたくさんありますよ。人間はいろんなものを感じたことを言葉にできるものは言葉にします。言葉にできないものを音楽家は音楽を作るわけです。画家は絵を描く。感性の世界ですね、美術館。黙って深く深く感じ取って帰っていかれるっていう世界ですから、それも非常に毎日感じております。言葉で伝える手法とは違うんだけど、そのたくさんの体験談を聞きながら、勉強して考えて、絵を書いたわけです。芸術っていう特別な伝達の方法っていうのは、そういう非常に深い言葉にならない世界を伝える世界ですから。大変毎日感じております。

【進行：平良 次子】

はい、各館が当たり前の活動として沖縄戦の史実に基いて、証言に基いてっていう風に、沖縄戦後史も含めてですが、行っておりますが、こう同じものを見て、感じ方が違ったりとか、解釈が違ったりっていうことが多々あり、それをどう伝えていっていかれるというのが、本当に私たち共通で理解し合う、それを伝えるっていうことが大きな課題かなと思っております。はい、それではまだまだ話はたくさんありますが、この辺で終わらして、今回のシンポジウム、こういう風に集まって皆さんでお話できたことについて、感想なりまた各館の決意なり、お言葉をいただきたいと思っております。

【沖縄県平和祈念資料館：大城 友恵】

はい、8館今回揃って、改めて皆様の取り組みが、会場の皆様ともシェアできたという、大きいのかなということ。で、それぞれやっぱり立ち位置、その展示している内容の立ち位置がありますので、その視点視点から、いろんなその、ものが見えてくるというところを、会場の皆様、あるいはその、何ですかね、この動画も配信される。それを観られる方々が、いろんなスタンスで、その平和を考えていく起点になるのかなというふうに思います。それがネットワークになることで、その平和に対する思いが繋がっていくのかなというふうに感じました。

【対馬丸記念館：嶋袋 寿純】

今回のこの8館の連携で、各館のやっぱり取り組み、この部分を参考にしたいなと思った部分もたくさんありました。そしてこの今後、戦後90年、100年連携を強めてですね、平和を訴える活動も、頑張っていきたいと思っております。

【ひめゆり平和祈念資料館：普天間 朝佳】

はい、本当に今日皆さんといろいろ話聞いて、本当にこう集まって話すると、とても意味があるなと思っておりますけど、実はこの80年を機にこうやってるんですけど、次子さんとは前から集まって何かみんなで連携したいねって言ってたのを、今年80年ということで、沖縄県が予算も出してきて、いろんないくつかの事業をやってくださることになってるんですけど、ぜひ引き続きですね、来年も、もちろん集まって、こう情報交換とかやっぱりするのは、やっていきたいんですけど、プラスやっぱり何か、お金がもしかかるような、みんなで事業をやる時に、ぜひ引き続き県のご支援をお願いしたいなと思っております。

【佐喜眞美術館：佐喜眞 道夫】

8館の連絡、連携を企画していただきましてありがとうございました。私は、なんとなく感じていたんですけど、やっぱり8館、今日の報告を見て、真面目にやってるなっていうのを実感しましたね。非常に嬉しかったです。沖縄のこの8館の全体の協力をさらに進めていけばですね、かなり大きな仕事になるんじゃないかなという感じがしました。

【ヌチドゥタカラの家：謝花 悦子】

私は伊江島から来てますんで、重度障害者でもあって、話をする資格もないかもしれないんですけど、阿波根と共にここまで来ました。たくさんの方のご理解とお世話になってきました。阿波根も亡くなって、101歳で亡くなって、20年が余りました。そういう先輩たちの元で、まだ完璧に止めることができない軍事予算、それに向かっている戦いは、これからも目的を果たすまで頑張らないといけないと思っておりますので、私は重度障害者でもありますが、阿波根の生涯と共に生きておりますので、佐喜眞さんとか、たくさんの方々にお世話になっております。いくら重度障害者であっても、気持ちは皆さんと同じであるように思いますので、切捨てないで一緒に歩ませていただきたいと思います。これから今日の会合にも伊江島から参加しておりますけど、思った以上にたくさんの方の勉強をさせていただきました。心からお礼申し上げます。生きてる間、重度障害者は要らんと言われてもくっついていきますので、一つご理解のほどお願いします。今回のこの企画の中に参加し、たくさんの方の勉強をさせていただきました。本当にありがとうございました。貴重なお時間すみませんです。

【不屈館：仲本 和彦】

はい、このネットワークが始まるまでは、我々の館は非常に孤独というのがあったんですけど、各々が点、点として存在してたのが、こうやって線になって、昨日の新聞で、東京都だったかな、なんか平和関連博物館のネットワークがあるのを見て、点、点に繋がったって言ったんですけど、線に繋がったって言ったんですけど、この沖縄と、それから本州の方との博物館ネットワークと連携をして、面にしていってということで、その今のこの東アジアの情勢に、国民の力を合わせて、平和な世界を作るために努力するっていうのが、できていくんじゃないかなっていう風に希望が持てる機会になりました。ありがとうございました。

【沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子】

愛楽園っていうのはご存知な方も、ハンセン病の問題をテーマにしている資料館っていう風に思われることがとても多いし、ハンセン病問題っていうことを全然ご存知のない方も多いと思うんですね。ただ、その中で色んなところお話をさせていただいてますけども、愛楽園の経験した沖縄戦っていうのは、存在が見えなくされている方の沖縄戦の経験で、それは様々な沖縄戦の経験をされてる方の一つの経験っていうことで、愛楽園の方々の沖縄戦の経験っていうのを、沖縄全体の経験の一つとして、こう出せないかなっていうのはずっとあったんですけど、こうやって並ぶと、なんか同じ土俵のところに居させて貰えるような気がして、口ではこう愛楽園も、これ見えなくされた方たちの沖縄戦の経験なんですというように、こう訴えて、一館で訴えるよりも、この場でお話をして貰うということで、なんか繋がるという実感を今も持ちました。ヤンバルから出るんだっていう、発信していってっていうお話もしたんですけど、やっぱり移動展は、せっかくここで繋がるところで工夫しながらやっていけたらと思います。ありがとうございました。

【南風原文化センター：保久盛 陽】

私たち、南風原文化センター、町立の博物館っていうこともあって、今回平和と人権のネットワークっていうところですけども、他にも芸能だったり、移民だったり、っていうことで色んな取り組みをさせて頂いている施設がありますが、こうした平和と人権っていうテーマの中で、私たち博物館自体若い学芸員が多くてですね、こういったも本当に知識が豊富で、色んな方々から聞き取りをしていて、色んなコミュニケーション、ネットワークを持ってる方々で、改めて繋がることができた、改めて連携を強化できたっていうところで、今後、このまた私たちの活動の発展であったり、皆さんと情報交換しながら、私たちだけじゃなくて、皆で発展できれば、非常に良い発信力をさらに持つのかという風にも思います。なのでこれからもよろしくお願ひいたします。

【進行：平良 次子】

はい、ありがとうございました。時間があつという間に過ぎていくのですが、皆さん物足りないです。なので、第2回とか、第3回それぞれの館をぜひ訪ねて、皆さんお話ゆっくり伺ったらどうかと思っております。これで2部のパネルディスカッションを終わりたいと思っておりますが、よろしいですか？大急ぎでした、どうも失礼しました。ありがとうございました。



ヌチドゥタカラの家
謝花 悦子・渡嘉敷 紘子



佐喜眞美術館
佐喜眞 道夫



沖縄県平和祈念資料館
大城 友恵



沖縄愛楽園交流会館
鈴木 陽子

質疑応答

質問 1 「平和関連施設と学校との関わりについて、今まで以上に繋がりや連携を取るために必要なことは」

【沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子】



はい、愛楽園交流会館の経験に基づいてお話をさせていただくことになるんですけど、今、とにかく学校と繋がりたいということで動き出しています。ただ学校側もとても忙しくて、こちらが提案した、例えば学習のための事前学習、こういうことができますよ、先ほど紹介したりしてるんですけど、それだけの時間を取ることができませんという風な言われ方はするんですね。その時は、時間がないければしょうがないと諦めたりもするんですけど、でもやはり情報発信をして、こういうことがあるんですよ、ホームページにこういう動画を載せてますとか、そういうまず手に取ってもらえるようなものを、学校の先生方に見てもらおうということが必要で、ただ、こちらの交流会館は人が本当に少なく、本当に本当に少ないので、そこまで手が回ってないというのが正直なところなんですけど、それでも、聞き取りをしたものを、動画編集したものを出すとか、少しでもそれは先生だけじゃなくて、生徒自身も見ることができるということで、少しでも情報を発信していくということ、やはり、学校って言った時には、子供たちは、大人の話の大人がこうだったという話よりも、その当時の子供たちの写真だとか、その当時の愛楽園の中学校、小学校で暮らした人たちの作文だとか、詩だとか、写真を組み合わせたりというものには、かなり見える部分がありますので、先ほどひめゆりの方のお話もありましたけど、やはり子供たちが、自分の目で等身大で感じることで、そういったものを、教員にはもちろんなんですけど、子供たちにダイレクトに届くような形を、振られても振られても、今年もまただめだったかと思いつつも、毎年、毎年アプローチしていくと、ある日突然、今年来れますか？とか、今年行きますっていうのがポロポロと今出てきていて、それが、実は地元の学校だったりするんですね。遠くからも呼ばれたりするんです。南城市の方から毎年呼んで頂いたりっていうのもあったりするんですけど、行ったり来たりっていうのを繰り返したりしてるんですけど、地元の学校からこう広がっていくと、休みの時にお父さんお母さんと一緒に来たりという形で、学校からさらに、学童クラブの人、そして家族という形、見えない学校との繋がりがっていうのもあるなと思っています。

質問 2 「若い世代への平和継承への思いと、親世代、若い世代にできることを語っていただきたい」

【ひめゆり平和祈念資料館：普天間 朝佳】



親の世代とか祖父母の世代も戦争体験者ではない世代になって、家庭の中ではなかなか戦争の話をしなくなってると思うんですけど、私たちの資料館には夏休みとか春休みとか、長期の休みの時に、親子連れですと、来館されて、親が展示を子供に説明したり、それから親子で一緒に証言本を読み上げると言うような、読んでるっていうような光景を目にするんですよ。だから、これからはそういう平和資料館みたいなところに行って、親子で平和を学ぶ。平和資料館だけでなく、映画、戦争と平和をテーマにした映画と一緒に見たり、なんかイベントにも参加したり、親子でできるだけ参加して行って、家庭にも持ち帰って、親子でまたその話をするとか言うことで、これが多分草の根の第1の継承じゃないかなと思って、そういう取り組みをぜひやって頂きたいんじゃないかなと思ってます。

質問 3 「戦争の話は怖くて聞けないという方に対し、どのように平和を考えてもらったらいいでしょうか」

【佐喜真美術館：佐喜真 道夫】



全く同じような感想を述べた女子大生がいました。私は沖縄の6月が大嫌いですと。6月になると戦争の私見たくもない残酷な写真を見せられて、戦争がこんなにしたんですと、そして平和の事と語らせると。6月というのは私が見たくもない、残酷な写真を無理やり見せられる月だと。それを12年間、小中高です。沖縄の6月は嫌いだって言う子がいました。沖縄戦の図があるということで、佐喜真美術館でも同じような思いをするだろうと思ってきました。ところが今回違ったんですね。それは写真と絵の違いでしょう。絵というのはその作家の思いがたくさん入ります。丸木さんは沖縄戦を描く時に、追悼の思いで優しく描いてるんですね。残酷な死体ではなくて、やはり美しく描きます。ですから、私は安心して残酷なおどろおどろしい絵ではありますが、安心して見れるんですよ。見ますから感じることもできる。考えることもできる。ですけど、多くのその情報を受け取ることができるのが絵です。ですから、絵であれば大丈夫です。1つ例を申し上げますと、3年前にですね、2022年に小学校2年生の徳本穂菜さんっていう女の子が、佐喜真美術館に来て詩を書いてくれました。今日は美術館に行きました。おじいちゃんも一緒、おばあちゃんも一緒、お父さんお母さんみんな一緒。楽しいなという詩から始まるんですね。そして美術館に入った、入ったら非常に恐ろしい絵だった。私自分の同じ女の子がひどい目にあってるだ。そういう話が、だんだん、だんだん怖くなって、寂しくなって、冷たくなった。お母さんに近づいた。お母さん暖かかった。これが平和かなって感じで、ずっと子供の詩が続くんですけど、私は怖い絵を見て平和が分かったと。私はこの平和っていうものをポケットに入れて、沖縄でしっかり握りしめて歩いていくという詩ですけどね。ご存知の方いらっしゃると思いますが、あの詩は沖縄戦の図を見て、おどろしい絵を見て作った詩です。すなわち、表現者の思い、画家の思いの向こうに溶かし込まれる真実を瞬間に感じ取るんですよ、子供っていうのは。ですから、芸術というのはそういう伝え方ですから、絵であれば心配ございません。

質問 4 「ニュースなどを見ていると、県外のメディアでは沖縄戦についてあまり報道されていないように感じますが、県外の方に沖縄戦についてもっと知ってもらうためにはどうすればいいと思いますか」

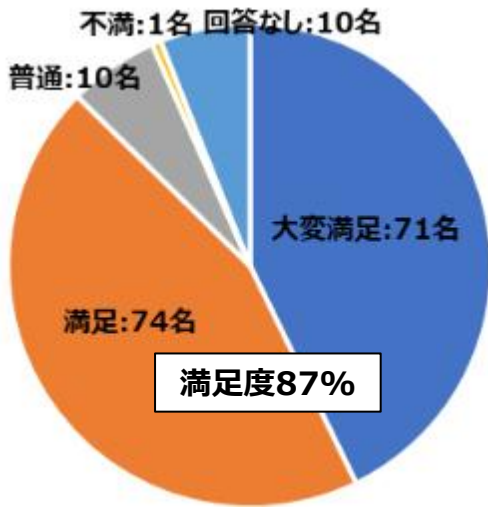
【南風原文化センター：保久盛 陽】



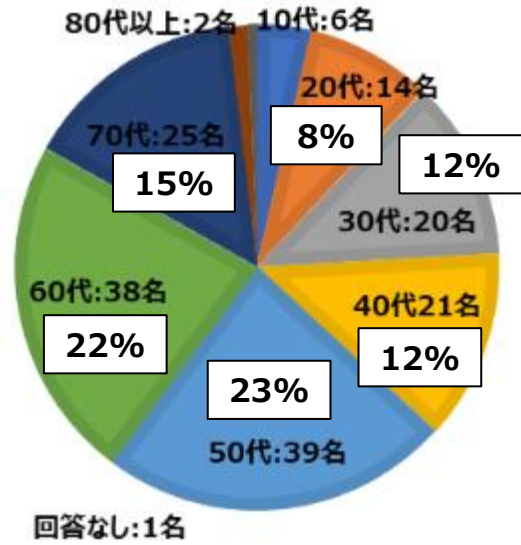
ありがとうございます。県外の方にどう風知ってもらおうかっていうところに、今日、何名かのパネリストの方おっしゃっていただきましたけれども、主体的な学びってことでおっしゃっていただけたと思います。南風原町というか、私たちの取り組みとしては、この陸軍病院壕の、保存公開っていうのはとても大きな取り組みだと思っていて、つまり、この壕の中に入ることによって追体験ができると。当時の様子をガイドを通して聞いて、想像して、五感で、暗闇であったり、色んなことを感じるわけですね。僕の先輩が言ってたんですけど、本当に、この壕の見学って、僕も受付とか行ったりするのでわかるんですけど、本当にフラッと修学旅行、研修できたりとかですね、個人研修、グループ研修できたり、もしくは観光客がもうサンダルと短パンで、ノースリーブとかで来る方もいるんですね。そういった、なんとなくフラッと来た方でもやっぱり追体験、中に入るとやっぱり変わるかなというのは印象としてあります。そうした追体験を通して、沖縄戦について考えるきっかけ作りがとても大切だと。追体験すれば、自分が体験者でなくても、自分がそこで感じたことを、伝えることができます。そういうこと、やっぱり先輩方がずっとおっしゃってきてまして、そうしたことを大事にしていきたいと思ってますし、そういう意味では追体験っていうのは非常に有効な、取り組みだなという風に、噛み締めています。

アンケート集計（一部）

参加者の満足度



参加者の年代



新聞記事

沖縄タイムス 令和7年7月7日（月）朝刊



第2回平和シンポジウム

開催日 令和7年10月12日（日）

開催場所 南風原町立中央公民館黄金ホール

開催時間 14:00～16:50

参加者数 152名（事前申込94名中69名来場、当日来場者83名）

オンライン参加者数 42名（事前申込数74名）

プログラム構成

■オープニング

つしま丸・那覇・南風原町合唱団 平和を願う歌の合唱 「ねがい」・「地球の詩」・「Believe」

■主催者挨拶

沖縄県副知事 池田 竹州

■第1部 平和ミュージアムでの中高生の取り組み報告

①南風原文化センター x 南風原町立南星中学校

②ひめゆり平和祈念資料館 x 県立向陽高等学校

■第2部 パネルディスカッション

テーマ1 戦後80年の節目として、各館で取り組んでいることで特に今年抱えている課題は何か
またそれら解決は、各館で連携することはできるか

テーマ2 沖縄戦の記憶の継承と平和の発信について

・進行役：琉球大学教育学部准教授 北上田 源

・パネリスト：①南風原文化センター：保久盛 陽

②南風原町立南星中学校：真喜志 夢実

③南風原町立南星中学校：北村 夢乃

④ひめゆり平和祈念資料館：古賀 徳子

⑤県立向陽高等学校：中村 奏穂

⑥県立向陽高等学校：神里 はな

⑦沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子

⑧南城市立馬天小学校：米須 清貴

⑨宮古高校出身関西大学：仲間 友佑

■質疑応答

質問1 回答 対馬丸記念館：平良 次子

質問2 回答 沖縄県平和祈念資料館：大城 友恵

質問3 回答 佐喜眞美術館：佐喜眞 道夫

質問4 回答 不屈館：久保田 美奈穂

質問5 回答 ヌチドゥタカラの家：渡嘉敷 紘子

■クロージング

2025年慰霊の日 平和の詩朗読 仲間 友佑 「これから」

司会・進行 フリータレント 東 由希恵

開催チラシ（表面のみ作成）

「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」の8館が連携して開催

OKINAWA PEACE SYMPOSIUM

第2回 平和シンポジウム開催
OKINAWA NO KOKORO

次世代へつむぐ 沖縄のこころ

学生による取組報告や合唱、詩の朗読を通して、
沖縄のこころを感じ、平和の大切さを共有する場です。
県内で平和構築に取り組む教員、学生、平和関連施設が
これからの平和継承について考えます。

2025.10.12日

14:00 ▶ 16:50 (13:30開場)

6+ 学級遠征が入ります。 参加無料

**南風原町立中央公民館
黄金ホール**

沖縄県糸原郡南風原町字喜屋武236

※会場の駐車スペースには限りがあります。
できるだけ早めにお越しください。

▲つしま丸・那覇・南風原町台地団の皆さん

▲南風原町立南風原中学校の皆さん

▲沖縄県立南風原高等学校の皆さん

登壇者

- 【司会】アリーナレント / 副会長 藤田 幸
- 【第1部】南風原町立南風原中学校、南風原町立南風原高等学校
- 【第2部】北上原 孝 氏(琉球大学教員 / 学部長 兼 教授)、米津 清典 氏(西天小学校教諭)、
学生、平和関連施設 学生、母会
- 【詩の朗読】沖縄県立南風原高等学校 / 仲間 友希 氏

プログラム

- 【平和をわがうた】 つしま丸・那覇・南風原町台地団
- 【第1部】 平和ミュージアムでの中高生の取り組み報告
- 【第2部】 パネルディスカッション / 質疑応答
- 【平和の詩】 「これから」(2024年沖縄全権会報告書様式にて朗読)

お申込みはQRコードから
オンライン配信あり(視聴には申込みが必要です)

<https://forms.gle/ISGUt2NpNqbJ4vsEA>

平和関連施設

ヌチドゥッタカフの家	沖縄愛楽文化交流会館	佐喜真美術館	対馬丸記念館
不図館	南風原文化センター	ひめゆり平和祈念資料館	沖縄県平和祈念資料館

沖縄県
Okinawa Prefecture

主催：沖縄県平和・地域内文化連携
協賛：沖縄・平和と人権博物館ネットワーク

平和関連施設
ネットワーク運営事務局
〒900-0015 那覇市久茂地1-12-12 ニッセイ那覇センタービル11階 東武トップツアーズ株式会社 沖縄支店内

TEL.050-9001-9778
発行時間：平日9:30～17:30 (土日祝を除く)

発行枚数：2,500枚

配布・案内場所：沖縄県庁内、平和関連施設8館、県内小中高大学、各観光協会、

平和ガイド関係者、県内ホテル連盟、県内バス会社、那覇市内ポスティングなど

新聞記事掲載：令和7年10月1日（水）沖縄タイムス

参加受付期間：令和7年9月23日（月）～10月11日（日）

オープニング：平和を願う歌の合唱

第1部 平和ミュージアムでの中高生の取り組み報告



つしま丸・那覇・南風原町合唱団



第1部 取り組み報告



南風原町立南星中学校 平和実行委員会



県立向陽高等学校・ひめゆり平和祈念資料館:古賀学芸員

第2部 パネルディスカッション



クロージング 平和の詩「これから」



第1部 平和ミュージアムでの中高生の取り組み報告

南風原文化センター

発表者 保久盛 陽



**南星中学校 平和実行委員会
南風原文化センター
の協働について**

南風原町立南風原文化センター
学芸員 保久盛 陽

協働のきっかけ(2024年度)

昨年度、南風原町が主催した「壕シンポジウム」に登壇し、
「まじか?」と問い合わせたのがきっかけ。
→2回の学習を実施。その後、生徒主体で発表資料を作成し、学芸員が資料提供やアドバイスを行う。
学習内容:南風原地域の沖繩戦、町内戦跡めぐり
◎6月の「平和旬間」に校内で発表、
8月の「壕シンポジウム」で発表!

2024年度 発表に向けた学習

左: 町内の戦跡見学
右: 黄金森の戦跡見学

2024年度 壕シンポジウムでの発表

3年生3名 2年生3名 1年生3名
がシンポジウムに登壇しました。

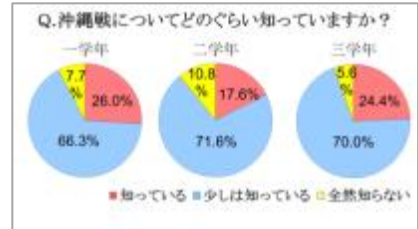
南風原町立南星中学校

発表者 平和実行委員会



戦争遺跡から学ぶ

南風原町立南星中学校
平和実行委員会



一学習の流れ

- ①沖繩戦について(時系列順に)
- ②黄金森の戦争遺跡について(交通壕・親子の遺物・仮埋葬地・20号壕)
- ③20号壕から学べること
- ④最後に

後方支援部隊

- ・食料の準備
- ・武器の搬送・管理
- ・自衛隊の連絡 など

一書き込まれた南風原住民

陸軍病院一棟の施設【壕の中は...】

- ・不衛生
- ・食糧が乏しい
- ・暑い

ひめゆり平和祈念資料館

発表者 古賀 徳子

県立向陽高等学校生徒



平和ミュージアムでの中高生の取り組み報告
県立向陽高校×ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆり平和祈念資料館とは

- ひめゆり学徒隊の体験が展示を制作した。
- 来館者に歴史、戦争体験を伝えるだけでなく、館の運営や学芸業務も行った。
- 若い世代に伝える方法を模索し、アニメや絵本の制作などにも取り組んだ。

「高校生が同世代に伝えるためのワークショップ」

- 高校生が沖繩戦を伝える館になってみる + その経験を通して学びを深める
- 招待した若者に対話をうながす「ア・イ・ド」
- 学校の沖繩戦「見える」が生涯同士の対話の場になる

高校生が同世代に伝えるためのワークショップ

2025年3月20日(土) 参加:10名(高校生5名 20名 職員4名) 講師:古賀徳子(ひめゆり平和祈念資料館)

第2部 パネルディスカッション 1/4

- テーマ1 戦後80年の節目として、各館で取り組んでいることで特に今年抱えている課題は何か
またそれら解決は、各館で連携することはできるか
- テーマ2 沖縄戦の記憶の継承と平和の発信について

【進行：北上田 源】

はい、よろしくお願ひします。それでは皆さん、今からですね、第2部のパネルディスカッションということで始めさせていただきたいと思ひます。第1部を聞いていてすごいですよね。もうなんて言うか、是非皆さんの取り組みを前に進めていってほしいなと思ひていて、なので第2部のところでやっぱりやりたいなと思ひていることは、どうやってそれを支えるかなんですよ。どうやって若い人たちの取り組みを支えるかっていうことを考えたいと思ひています。そのため今日2つのテーマをですね、この後お話ししたいと思ひていて、2つ合わせて50分間の予定なんですけども、1つ目がですね、1部の方でも出ましたけれども、若い人たちが実際に活動をしていく中で、感じている難しさだったりか気になることとか、そういうことを話してもらって。その上で、それに関して私達はどう考えればいいのか、というのを8館の方とか先生と一緒に考えていきたいと思ひています。それは1つ目ですね。2つ目は、それも踏まえてこれからの平和学習はどうあるべきか、どうしていけばいいかって話をしていきたいと思ひています。そういう形で進めていきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。まず最初1つ目なんですけども、先ほども言いましたように、すごい取り組みをしてるなと思うんですけど、その中で実際にその活動してくれてるメンバーがいるので、1部と被っても構わないので、なんかこんなこと難しいと思ってるんだみたいなことを、順番に話してもらって、南星中学の皆さんから話してもらっていいですか？お願ひします。

【南星中：真喜志 夢実】

南星中学校平和実行委員会では、これまでの活動で自分事として捉えてもらうことを目標にしてきました。例えば、校内での学習発表会でクイズを入れたり、色々工夫をしたのですが、発表後の感想を読むと沖縄戦を過去にあった出来事として、歴史として学んでいるだけのままになってしまっていると感じています。これをさらにどうやって自分事として捉えてもらうにはどうすればいいのかがとても難しい課題だと思ひています。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。それでは次、向陽高校の方からいいですか？

【向陽高校：中村 奏穂】

私は平和ガイドを通して、この得た知識を自分の言葉で伝えるっていうのがすごく難しかったです。私たちは、この平和ガイドは対話型っていうのをテーマとして掲げているんですけど、一方的に自分が話してるっていう時もありましたし、聞いてくださる方に私が伝えたい気持ちがちゃんと届いているのかなっていうのも、やっぱり難しいなっていう感じがありました。

【向陽高校：神里 はな】

先ほどの第1部での発表にもあったように、海外からの来館者の方にどうやってガイドしていくかっていうところが課題かなと思ひています。やっぱり、通訳とか、翻訳をするときにも、ニュアンスの違いっていうのがどうしても生まれてしまうと思うので、そこをどう乗り越えていくかっていうのが課題かなと思ひています。

【進行：北上田 源】

仲間さんも、1部には出て来られなかったんで、簡単な自己紹介というか、経歴から含めて少しお願ひします。

【大学生：仲間 友祐】

宮古高校出身で、昨年の慰霊の日の式典で平和の詩の朗読をさせていただきました。今は関西大学で、大阪に住んでいます仲間友祐と言ひます。平和について感じるのですが、今年から大学生として大阪に住んでるんですけど、そこで感じるのが、今日本が置かれている状況についての認識が、沖縄の人と本土の人とは、だいぶかけ離れてる印象があって、沖縄ではやっぱり基地問題にしろ、あるいは先島諸島の南西シフトって言われるような話にしろ、台湾有事に関わるようなことで、国境にある県としての危機感っていうのが、近年高まってきてると思うんですけど、やっぱりそれが内地の方ではあまり感じられなくて、最近よく聞く言葉で、メシテロって聞いたことありますかね。第三者に食欲を煽るような動画とか行為をメシテロっていう風に言うんですけど、あんまりそう簡単にテロっていう言葉を使われると、その平和を守る人がいるということとか、その安全保障のところで、すごく危機を感じる人たちがいるということが、なんか置いてけぼりにされてるような感じで、それが過去の戦争を考えるっていう意識を薄めることにもなるんじゃないか、これは内地と沖縄だけじゃなくて、沖縄本島と先島の方でも、その認識のギャップっていうのはあって、近年のその危機感の高まりを思うと、宮古の人とか先島の人としては、放置されてる感とか、平和が揺らいでる感じがするっていうそのギャップが、どう埋められるかっていうのが最近考えることです。



進行役 北上田 源
(琉球大学准教授)



南星中学校
真喜志 夢実



宮古高校出身
仲間 友祐



ひめゆり平和祈念資料館
古賀 徳子

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。なかなか皆さん大きな課題の話をしてくれました。私の方で簡単に整理させてもらった時に、最初は南星中のほうから言われたことと、あと今仲間さん言われたことは、おそらくその、南星中のほうではその、どう自分事として捉えてもらうかって話をしてました。仲間さん言われたこともその、どうやってこう、今の問題として、自分たちの問題として多くの人に認識してもらえらるだろうかっていう、特に県外に行くとギャップを感じるって話ですよ。だから、自分事だったり、今の問題として捉えてもらうためにどうしたらいいかって話がある。もう1つが、向陽高校のお2人言ってくれたことは、多分、どうすれば対話ができるのかとか、あるいは、海外からのその来館者への伝え方って話だと思います。ちょっと性格が違うテーマなのかなと思ひますが、その2つの話をこの後していきたいと思ひます。最初にあればいいんですが、保久盛さん、古賀さん、一緒にその、中学生、高校生として、今の話に関して、確かにこういう風にして難しそうだったとか、あるいはこんなことができてたんじゃないかみたいなこと、もし補足できれば少し聞いてもらっていいですか？あればいいですけど。

【ひめゆり平和祈念資料館：古賀 徳子】

はい、そうですね、今一緒に見ていてっていうこと言う、実際に展示ガイドをやっている時に、間違ったことを言ってしまうってたりするのを指摘をすると、すぐ吸収して、またやりながらどんどん説明がうまくなっていて、吸収力がすごいっていうのは、50代半ばの者として、そういう共感しながら見ていました。対話については、フォトランゲージみたいに、これなんだと思ひますか？とかっていうように聞きながら、相手の人に、こう注目させながら、その沖縄戦、ひめゆりの体験の証言を元にした絵なので、こう見ていくと、実際何が起こったのかっていうことに、一緒に迫っていくことができるんですよ。なので、戦争からこう遠くなってきて、なんか昔戦争あったんでしようみたいな歴史の話として捉えてる人たちは、本当にこういうことがあったんだ、ここであったんだみたいな、その実感がみえないものを持ってもらうことと言うと、この歴史と今を繋ぐという意味で、彼女たちがその対話をしながら、証言絵を伝えていくっていうことは、役に立ってるんじゃないかなと思ひています。

【進行：北上田 源】

なるほど、私もそのやっぱり、向陽高校さんとか、ひめゆりの資料館と、ペアでやられた取り組みを聞いて思ったのが、多分、向陽高校の皆さんがそのガイドをする時に、皆さんがその伝えるっていうよりは、皆さんも参加、来館者の人も一緒に絵に向かっていくじゃないですか。あれがすごいことか、学習を重んじたっていうことあって、生徒もそのことを理解してすぐ頑張ったと思ひます。一方でただ一方的に伝えるだけで終わってはまずいっていうところで、私自身が心がけているのは、対話型とまでは言えないですけども、なんでこの壕の中が真っ黒になってると思ひますか？ということだったり、なんで曲げて作られてるかわかりますか？曲げて作られてることに気づきますか？とか、ひめゆりの方々が、それこそ一緒に貫通工事をしてっていう24号壕もありますけれども、なんでそもそも入り口が1つだと危ないと思ひますか？とか、そういった、1つ1つの問いかけを見学者の人にすることによって、少しでも一方的じゃない見学の仕方を心がけようっていうことは、生徒のみんなには伝えてきましたし、それは非常にみんな心がけて、なんでだと思ひますか？なんでだと思ひますか？っていうのが、ガイド中に聞こえてきたので、少しでも、コミュニケーションを取りながら、一方的じゃないコミュニケーションを取りながら、ガイドはできているなっていうことをとても思ひました。とても良かったなと、それは思っています。

【南風原文化センター：保久盛 陽】

壕のガイドを9月28日にやって、家族の向きにも、その前にもやってますけれども、この壕のガイドをするにあたっては、一般的にこちらの壕に来る見学者の人というのは、ここで何が起こったのかを知りたいっていうところがやっぱり一番あって、そういうところで、きちんと事実を伝えようということがまずあって、学習を重んじたっていうことあって、生徒もそのことを理解してすぐ頑張ったと思ひます。一方でただ一方的に伝えるだけで終わってはまずいっていうところで、私自身が心がけているのは、対話型とまでは言えないですけども、なんでこの壕の中が真っ黒になってると思ひますか？ということだったり、なんで曲げて作られてるかわかりますか？曲げて作られてることに気づきますか？とか、ひめゆりの方々が、それこそ一緒に貫通工事をしてっていう24号壕もありますけれども、なんでそもそも入り口が1つだと危ないと思ひますか？とか、そういった、1つ1つの問いかけを見学者の人にすることによって、少しでも一方的じゃない見学の仕方を心がけようっていうことは、生徒のみんなには伝えてきましたし、それは非常にみんな心がけて、なんでだと思ひますか？なんでだと思ひますか？っていうのが、ガイド中に聞こえてきたので、少しでも、コミュニケーションを取りながら、一方的じゃないコミュニケーションを取りながら、ガイドはできているなっていうことをとても思ひました。とても良かったなと、それは思っています。

第2部 パネルディスカッション 2/4

【進行：北上田 源】

そうですね。どうしても限られてますもんね、時間が。限られた時間の中で伝えるって時に、正しく伝えなきゃいけないと思うし、これも伝えたい、あれも伝えたいと思う。だけど、それだけだと一方的になりがちなので、どうするかってことだと思います。その時に、今、保久盛さんの話で、かなり重要なその問いかけというか、なんでこうなってると思いますかっていう時に、多分それを全部聞いていくわけじゃないですね。話の中でここが重要だと思ことを選んで、なぜって聞いていると思っていて、多分そこはそういうやり方も含めて、色んな対話の仕方あると思うんですけど、なんかこう対話をしようって言う時に問いかけることはもちろん重要。さらにそれをどう絞っていくかっていうことは、やっぱりすごい重要なことなんだろうなって、今聞いてて思いました。はい、今、先ほども言ったように、その若い人たちの声を受けて、どのように考えていけばいいかってことなんですけど、それで、今どちらかと言うと、どうすれば対話にできるかだったり、その話が多かったのですが、例えば、自分事としてどう考えられることができるか、あるいは、今の問題としてっていうことに関して、どちらでもいいんですけど、もし米須先生や鈴木さん、あればお願いしていいですか？

【馬天小学校：米須 清隆】

はい、馬天小学校の米須と言います。若い人と座るととても緊張するっていうのが今日の学びですね。はいよろしくお願ひします。なんか良いこと言わなきゃいけないという思いがとても自分を緊張させていますが、そのさっきの難しいなと思うところっていうことを聞くと、やっぱり自分の問題と重なって聞こえてしまいます。そもそもそのころなんですけど、やっぱり自分も数年前に関東で、大学で学ぶ機会があったんですけど、向こう行くと当たり前にも、なんで平和教育や平和な生き方じゃないの、なんで沖縄の人は平和教育、学習カリキュラムこんなにびっちり組まれているのに、その時間を作って、なんで平和教育するの？平和学習するの？って聞かれるんですよ。考えたことありますか？平和のために言うとなんか堂々巡りじゃないですか。平和のために平和学習する。自分にとってどういう意味があるんだろうって考えさせる機会がありました。恥ずかしながら20数年教員してるんですけど、改めて自分に問いかけるとそれうまく答えられない自分がいました。そこから自分の授業やる、それが仕事ですが、授業でも私は何のために子供たちと一緒に平和を学ぶのか、沖縄戦を学ぶのかって考えるようになりました。そして、自分はこの学習を通して自分自身は何を学んだかになって考えるようにするよう自分に言い聞かせるようになりました。例えば自分ごとの学んで来たとか、例えば対話ってなんだとか、さっきあった認識のギャップってどうしたい、どうやって埋めていくんだって言った時に、まず何よりも自分の軸っていうのが大事じゃないかなと思ってます。自分はこういう風に考えてるんだって。もちろんそれは私だっけです。さっきの南星中学のアンケートのように、沖縄戦のこと知ってますかって聞かれたら、多分同じ返答すると思います。中学生と。それくらい沖縄戦っていうのは自分にとって難しいんですけど、でも自分なりに学んだこと、そして自分が受け止めたことっていうのは自分のなかにきちんと、明確にしておきたいなと思ってます。不十分ですけど。でもそれがあれば、なんか人と対話しやすいし、ギャップがある人ともそういう対話は重ねて、お互いの意見を交流して埋めていくこともできるんじゃないかなとかいう風に考えています。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございました。なかなか皆さん大きな課題の話をしてくださいました。私の方で簡単に整理させてもらった時に、最初は南星中のほうから言われたことと、あと今仲間さん言われたことは、おそらくその、南星中のほうではその、どう自分事として捉えてもらうかって話をしました。仲間さん言われたこともその、どうやってこう、今の問題として、自分たちの問題として多くの人に認識してもらえらるだろうかっていう、特に県外に行ってギャップを感じるって話ですよね。はい、ありがとうございました。鈴木さん、そのまいいですか？

【沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子】

手短に。愛楽園は、ハンセン病の療養所ということなんですけども、私も、中学生、高校生と同じように園内の防空壕ですとか、案内することがとっても多いんですね。その時にやはり思うのは、愛楽園のハンセン病問題、差別とか偏見とかっていうものが沖縄戦と直結しているんだってということと、あとその中で、ここで暮らさざるを得なかった方たちがいたんだってということと、その場で感じてほしい、出会ってほしいっていうのがあってガイドをしています。なかなかその対話型とかそういうのは、今、本当に耳が痛いかなと思って聞いていたんですけども、しゃべり倒しちゃうもんですから、私自身が。だから、耳痛いかなと思ながらも、ただ、何を伝えたいかっていうことだけは、私自身は意識して、沖縄戦と直結する沖縄のハンセン病問題っていうことが伝わってほしいし、ここで暮らさざるを得なかった方がいたということ。そして、愛楽園の方々の中で、永遠に自分たちがここで隔離されて暮らさなきゃいけないことを永遠に語り継いでほしいんだ、っていう風な思いがある。その思いを語り継ぐ一人になりたいっていう思いで、ガイドしてますっていうことです。はい以上です。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございました。なかなか皆さん大きな課題の話をしてくださいました。私の方で簡単に整理させてもらった時に、最初は南星中のほうから言われたことと、あと今仲間さん言われたことは、おそらくその、南星中のほうではその、どう自分事として捉えてもらうかって話をしました。仲間さん言われたこともその、どうやってこう、今の問題として、自分たちの問題として多くの人に認識してもらえらるだろうかっていう、特に県外に行ってギャップを感じるって話ですよね。

ありがとうございます。今お二人の話、おそらくその、なんていうか、伝える側としての、軸と、自分なりに何を大切にすることかということ、やっぱり考える必要があるんじゃないかなという話かなと思います。

どうでしょうか皆さん何かあれば、この地域差、意識差を埋めていくために、どうしていけばいいかみたいなことで、どうでしょうか。

【南星中：北村 夢乃】

地域差のギャップを埋めるっていうのの提案なんですけど、色々な地域によってたくさん色んな戦争とかがあるじゃないですか。それって自分たちが住んでる地域からどどん学んでいくと思うんですね。なので、こう自分たちが学んだことを、たくさん地域から集まって、その1つの場所で発信する。それを皆さんに聞いてもらうとか、そういうことをしていけたら、色々な地域のこの戦争とかを知れて、自分たちのこの地域差、戦争のイメージのギャップとかを埋めていけることに繋がるんじゃないかなと思います。



沖縄愛楽園交流会館
鈴木 陽子



南城市立馬天小学校
米須 清貴



南星中学校
北村 夢乃

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございました。なかなか皆さん大きな課題の話をしてくださいました。私の方で簡単に整理させてもらった時に、最初は南星中のほうから言われたことと、あと今仲間さん言われたことは、おそらくその、南星中のほうではその、どう自分事として捉えてもらうかって話をしました。仲間さん言われたこともその、どうやってこう、今の問題として、自分たちの問題として多くの人に認識してもらえらるだろうかっていう、特に県外に行ってギャップを感じるって話ですよね。

ありがとうございます。今のお話で言った時に、おそらく間違いなくそれは、地域によるその意識の差はありますよね。それは県外と県内、そして県内の中でもあると。それをどうするかってことに関して、今のお話で言うと、おそらくそれぞれの地域でちゃんと足元を掘り起こして、ちゃんとその発信できるようにしていくってことですよね。それができると、その形での取り組みが繋がっていくことで、みんなが色々知ることができるようじゃないかっていう、そういうことですね。なるほど。だから多分今のお話で言った時に、どうやって自分の足元、自分の地域のことややっぱりきちんと学んでいけるかっていうことで、さらにそれがどうやって繋がっていけるかっていうことですよね。なるほど、どうでしょうか？何かもあれば。今の話もすぐその2部の話、テーマ2の話にも繋がれそうなので、そこに行ってもいいんですけど、それでいいですか？この流れでそのままもうテーマ2の方に行きたいと思ひます。

もう今、言ってくれたことも含めて、そうなんですけども、今後平和学習をどうやっていけばいいのってことですね。それはもう今のテーマとも密接に関わる話ではあるんですけど、もし今後どうやって行けばいいと思うか、というようなことを少し話してもらっていいですか？最初に言ったことがあるじゃないですか。それに関して、今答えるって言って流れてくるんですけど、まだまだ答えてもらってないと思うんだら、それ言ってもらっていいし、願ひします。これからの平和学習。

【大学生：仲間 友祐】

これからの平和学習。自分も詩で「これから」ってタイトルつけて書いたぐらいなので、今後のことってのはよく考えていたんですけど、宮古島出身で、やっぱり南島とは違う沖縄戦ってのがあって。毎年6月になると、どうして過去のことだから、その同じ時間のその沖縄戦って1945年のある部分に注目することになるから、どうしても毎年同じような内容になってしまいがちで、そういうところで興味関心が薄れていく生徒も多かったりします。なので、今後の平和学習に求めるものとしては、その戦争があったこと、その戦争の中身も同じぐらいこの戦後何があったかっていうのは重要だと思ひて、戦後だけだの人がどうだけの苦勞をして、今まで、今の時代を作ってきたか、どうやって復興していったか、あるいは戦争がもたらした、そういう人権問題であったり、あるいはマリアとかそういう伝染病であったり、そういうものの歴史、そこから戦争が残した問題、そして、今に繋がってる問題から、今起きてる問題にどう向き合ってるかっていう、そういうなんか時間の一貫性みたいなものがあれば、生徒たちもものすごく当事者意識が湧きやすいと思ひます。最初はその歴史っていうものを教わるってところから、その話が進むにつれて、その考えっていう方向に思考を転換していける学習があれば、当事者意識っていう、その関心がない人の切り口になりやすいんじゃないかなと思ひて、そういう学習があるといいなと思ひます。

第2部 パネルディスカッション 3/4

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。なかなか皆さん大きな課題の話をしてくださいました。私の方で簡単に整理させてもらった時に、最初は南星中のほうから言われたことと、あと今仲間さん言われたことは、おそらくその、南星中のほうではその、どう自分事として捉えてもらって話をしました。仲間さん言われたこともその、どうやってこう、今の問題として、自分たちの問題として多くの人に認識してもらえらるだろうかと、特に県外に行ってギャップを感じるって話ですよね。はい、ありがとうございます。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。なかなか皆さん大きな課題の話をしてくださいました。私の方で簡単に整理させてもらった時に、最初は南星中のほうから言われたことと、あと今仲間さん言われたことは、おそらくその、南星中のほうではその、どう自分事として捉えてもらって話をしました。仲間さん言われたこともその、どうやってこう、今の問題として、自分たちの問題として多くの人に認識してもらえらるだろうかと、特に県外に行ってギャップを感じるって話ですよね。ありがとうございます。鈴木さんのほうで、これからの平和学習ということをお願いします。

【沖縄愛楽園交流会館：鈴木 陽子】

これからというだけではなくてですね、ハンセン病問題っていうものを考えた時には、戦前戦後、沖縄戦、戦後っていうのはもう、直線で繋がっているんですね。ハンセン病の患者全ての隔離収容っていうのは、そもそもの目的というのが強い兵力を作ると言うことが目的で、患者の隔離収容とし、沖縄戦直前に日本軍が来た時は、隠れ住んでるハンセン病患者さんをトラックで療養所に連れてくるということをやって、沖縄戦を迎えて、隔離収容の中で激しい爆撃を受けるんだけども、そこから逃げることもできない。ということで、まず沖縄戦の時に、その排除されている人、構造的にもう政策として排除されている人のところに被害が集約されるという経験があり、さらに沖縄地上戦でしたから、戦後ハンセン病の発症、地上戦があったためのハンセン病発症ということが沖縄ですごく問題になって、中学校世代の発症者が非常に増えたということが問題になっている。ということで、今の感染症の問題、マリアアとっていうお話ありましたけども、ハンセン病自体も地上戦があったために戦後の発症が増えた。ということがこれは言えるんですね。その制度的に、法律として隔離政策ができて、みんなを隔離収容しなきゃいけないだというのが法律として正しいとなったために、もうみんなが、その一般の人々から、官民一体で、療養者を送り込むという中で、沖縄だけじゃないですけど、偏見とか差別がすごく強化された。この制度が戦後もずっとずっとと続いている中で、その、戦争の兵隊の兵士の増強のために目的とした法律がずっと続いたために、ハンセン病の患者さん、家族の皆さんへの偏見や差別が続いていく、強化されていく。それ今の沖縄の問題でもあるんです。ということは、もう直接的に直線的に戦争とハンセン病、沖縄戦と今の状況っていうのが繋がってるんですね。平和の礎の時も、愛楽園の戦没者315名、今は平和の礎に刻まれているんですけども、当初は30名しか刻めなかった。それを自治会の人たちが大運動して、全員を自治会の国名申請でできるようにした、という風に自治会が大運動をして、頑張って国名も勝ち取った。生きていた証を国名として表した。名誉回復っていうのが、今現在に繋がってる問題なんです。だから、これは今は、仲間さんのお話のごく一部を具体的なハンセン病の問題として1つ取り上げた時にも、この沖縄戦っていうのが今の問題に直結している。コロナ禍、まだコロナの問題ありますけども、そのコロナ禍の時にも、コロナを特に当初なんですけども、感染しました、発症しましたっていう、1番ケアを必要とされる方に対する、排除ですか、そういった問題っていうのは、ハンセン病患者さんに、患者さんの家族に行なったのと同じことがまた繰り返された。ということで、この感染症の問題っていうのは、もちろん、今は沖縄戦のっていうところでの話から、平和ということから来てますけども、その、戦争のための隔離収容の政策が今のハンセン病問題に繋がってる。同じことがまたコロナ禍で繰り返された。ということで、やっぱり感染症っていうもの、健康っていうものと平和学習、平和っていうものが、これは密接にあるわけです。すごく密接な関係にあるということで、平和学習って言った時に、その地域のよって、ヤンバルの沖縄戦とか、中南部とかまた違うものがあるし、愛楽園の排除された人の戦争っていうものもある。それが今に繋がってる。今に繋がってるって言ったなら、沖縄戦のトラウマの問題っていうのは今問題になっている。ということで、こう繋がっている問題っていう、ほんとごく一部の部分とって、直接的に繋がってるってことが言えるんじゃないかなと思います。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。仲間さんのほうから提案があった、いわゆるテーマとして戦争以外に広げていくということ、時間的に広げていくという話をさせていただきました。今の話は、やっぱりさらに言うと、その愛楽園のことと言った時に、ハンセン病の言った時に、テーマとしても戦争以外で差別、人権、そして感染症の問題で、様々広がっていく、そういうことができると、平和学習の可能性が広がるんじゃないかという事かなと思います。そういう形で、その学校との連携もあるんだけど、それだけじゃなくてさらに、以前からそういう形でその地域の若い人たちを集めてというのをずっとやられてきたのが、南風原の取り組みかと思えます。せっかくなので、本人がいるので、夢乃さん、夢実さん、もしその中でどんなことを学んできたとか、あるいはそこから言う今後の平和学習への提案、さっきと同じでもいいので、話してもらっていいですか？

【南星中学校：北村 夢乃】

文化センターでやったこの子供平和学習っていうのは、小学6年生の対象なんですけど、そこからこの平和学習を卒業して、中学校に上がって、またこの平和実行委員会っていうのに入って、学んでいくっていうのがもうそもそもの学習のこの継承に繋がっていったらいいと思います。この中学校の、この上も高校生の方々もまた、同じように平和を繋ぐための活動をしていくことがとても意味があることだと思っていてこの活動が、小学校、中学校、高校とどんどん繋がっていったら、またこの他の中学校との交流をしていく上で、地域の戦争についても交流をすることができると思う。この中学校ごとにご連携して行っている施設、この馬場小学校だったらハンセン病の施設、南星中学校だったら文化センターとか、また学校と施設との連携もあるので、この交流をしていく上で色々な施設とたくさん学んでいけると思うし、なのでやっぱりこう学年が上がっても学んでいって、それをまた交流して、考えを広めていく交換していきっていくことがすごく大切だと思います。

【南星中学校：真喜志 夢実】

また今のお話でいくと、各施設と学校との連携なんですけど、これをさらに発展できるのならば、学校同士、若い世代の生徒と生徒同士が協力して、平和学習の発信をしていったら、これこそ継承って言うのではないかなと思います。

【進行：北上田 源】

ありがとうございます。今、平和学習の関係で、接する方多いと思うんですけど、やっていきましょね、ぜひ。これは、言われる前にちゃんと形を作ったかたです。ただ実はあれなんです。もうすでになって言ったらあれですけど、特にコロナ禍以降、かなりそのオンライン使った取り組みっていうのは、一部あって、そういうところでは、例えば離島のその学校と、県内、沖縄島内での交流するとかっていうのは、やってはいるんですよ。だから、もちろんやっぱりその、いろんな制約はあると思うんですけども、以前に比べて、やっぱりやりやすい状況は出てきたと思うので、まさに今提案して貰ったみたいな形で、動いている人たちはいる。その人たちがちゃんと繋がれるような形で、あるいは学校単位で繋がっていく。ぜひやりましょ。その繋がりで、小禄高校の2人ですね。この間、多分、他の高校との交流とか、いろんな若い人たち同士の交流もしてきたと思うんですけど、の中で感じたことや、今後の平和学習の話がもしあればお願いします。

【向陽高校：中村 奏穂】

私たちはいろんなシンポジウムとかの参加で、他の高校の生徒と交流っていうことがちよくよくあったんですけど、やっぱりいろんな地域から来ているので、新たな発見があったりとかも結構あって、読谷高校はこの劇を通して平和を伝えていたりとか、首里高校の首里城の地下にある塚について、この観光客の方にガイドをしているとか、そういうことをいろいろと意見交流を行ったことで、自分たちのこの平和ガイドにもこれ活かせるんじゃないのとか、そういう発見ができたなというのがあります。

【向陽高校：神里 はな】

私も様々な広島県の高校生だったり、様々な同年代の方々とお話して来たんですけど、やっぱり、今現在ってすごいグローバル化が歌われていると思うので、私たちはもっと多角的に物事を捉えるようにならなきゃいけないっていう風に感じているんですけど、やっぱり、もっと私たちがも広島のことだったり、長崎のことだったり、それよりも私たち、日本がしてきた加害の歴史についてだったり、もっといろんな面でも戦争について、平和について捉えていかないとかなんていう風に思っています。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。テーマ2の方もあと5分ぐらいなんですけども、

【向陽高校：中村 奏穂】

すいません、この先ほど南星中学校の生徒2名が、他の中学校と連携して色々やっていきたいという話をしたんですけど、この色々他の学校の人たちとやりたいと思う気持ちっていうのはすごく大事だと思うので、でもこの声にあげない何も始まらないので、やっぱりこの色々な先生方とこういうことをやりたいて、自分、生徒たちだけだとやっぱりその伝える力っていうのはやっぱり弱いのので、この大人を巻き込んでいってというのがすごく重要になっていくのかなって、この高校生になってすごく実感してます。



南風原文化センター
保久盛 陽



向陽高等学校
中村 奏穂



向陽高等学校
神里 はな

第2部 パネルディスカッション 4/4

【進行：北上田 源】

はいありがとうございます。そうですね、多分最初に言ってくれていた、ほら、海外から来た方に伝えることの難しさって話をしてくれたと思うんだけど、多分その辺りとかの部分で、もし伝わりくい部分があるとしたら、多分やっぱりお互い、お互い特に私たちがきっちり、例えばアジアの人たちのことを、アジアで何があったか、あるいは何があったか、戦争のことやっばり学んでないっていうのは大きいと思うんですよね。その前提がやっぱり違う中でそれをやっぱり伝えるのはやっぱり難しい。だからこそ、やっぱり学ばないといけないっていうことかなと思います。どうですかね。今の話に関わって、もし何かこんなことあるんじゃないかとか最後1人くらいどうですかね。古賀さんとかどうですか。ぜひ、今の今後平和学習でやっぱりそれやっばりいってほしいんですけど、どうしてほしいかとかお願いします。

【ひめゆり平和祈念資料館：古賀 徳子】

はい、沖縄にいるから沖縄戦のこと学ぶのは当然なんだけれども、でも自分がそれを伝えてきた時に、相手のことを全く知らない、どう伝えていいかわからないとか、特に海外の人に、いきなりこう沖縄戦の細かい話しても伝わらないかなとか、だから、やっぱりその相手と会うことで、相手のこともっと知らないで伝えるの難しいなっていうことを感じるってことがあるのかなと思いました。それでひめゆり資料館でもハワイでの巡回展というのを前にやったんですけど、ハワイのウチナンチュがたくさん沖縄の人がたくさんいるところとはいえ、アメリカしかも、そうですね、日本が攻撃した場所なので、どういう風に受け止められるのかなと思って心配していたんですが、感想の中に、今まで軍の視点で戦争のことはたくさん聞いてきたけれども、住民の視点での戦争のこと初めて知ったっていうアンケートがあって、こういう意味があって、そういう風に受け止めてらるのかっていう風に驚いたことがあります。それは余談ですけども。

なのでやっぱり自分が伝えるっていう時に、相手と会って全然相手のこと知らないとか、その相手の地域の人のこと知らないっていうことに、やっぱりショックを受けて、でも知らなきゃっていう風に自分も変わっていかなくちゃいけないかな、だからその自分だけが教えてあげないんじゃないかっていう、そういうことを多分皆さんは実際、いろんな人に対応しながら感じているし、とてもそれが大事だなあっていう風に感じているし、とてもそれが大事だと思っています。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。それではもう時間ではあるんですけど、やっぱり今日この話の中で、すごい印象に残ったのは、もうきっちり、そのね受講生、大学生からの声に関して、私たち受け止めないといけないし、今後何してほしいかは、かなりはっきりと分かったなっていう感じがあります。ただ、この流れにはなるんですけども、会場の方にも、いろんな取り組みをしてくれる若い人たちや関係者の方だと思うので、少しお話、意見を聞ければと思うんですけども、最初です、向陽高校の引率の妻夫木先生、少し今日の話の感想でも構いませんし、補足なりあるいは思いなり、何か語っていただけてよしいでしょうか。

【向陽高校教諭：妻夫木 麻紀子】

はい、向陽高校の妻夫木と言います。本日は本校生徒もこのような、シンポジウムに参加させていただきありがとうございます。やっぱり学校現場として、これから平和学習を小中高大まで、人権や戦後のことも含めながら系統的に進めていくことが大切なのかなという風に改めて感じました。そしてまた資料館、各資料館と、こうやって小学校と中学校、高校で大学生も関わりながら、平和学習を進めていることが沖縄の希望ではないかなという風にも思いましたし、大人もたくさん巻き込まれて活動できればなという風に思っています。本日は本当に有意義な時間ありがとうございました。

【進行：北上田 源】

はいありがとうございます。あと高校生で少し活動している方とか、もし話ができれば、いいですか？ 手上げてもらっていいですかね？

【首里高校：平田 菜乃華】

皆さん、こんにちは。首里高等学校2年の平田菜乃華です。私は、南風原町出身なんですけど、中学時に参加した沖縄戦体験者からの聞き取りや、ハワイでのパールハーバーでの平和学習をきっかけに平和活動を続けています。今年の6月からは、高校でNEO同好会という部活を立ち上げメンバーも増え、高校生を主体に、自ら新スタイル型の平和学習、若者の平和に対する無関心に揺さぶりをかけるために、アクティビティを中心とした平和について考えるためのきっかけ作りの授業を行っています。同じように高校生として活動している向陽高校の学生を見て、それぞれの学校や地域だけに偏らず、互いに協力して80年という節目のみならず、継続的に沖縄県全体に向けて何か発信活動ができればいいなと思いました。またこのディスカッションを受けて、私もすごく共感する部分があって、この同世代間での交流っていうのは、実際に私も福島の高中生と交流した際に、沖縄戦って本当に教科書上だけの話だと思ってたとか、あとは原爆とかについて発信することはタブーとされてるんで福島では、沖縄と全然違うねとかって言われて、本当に地域での格差とか違っているのが見られました。なので、この私たち世代は、次世代を担っていく世代なので、同じ平和を作っていくもの同士で足並みを揃えてしっかり交流をして、みんなで意見を交流し合って平和を作っていきたいなと思うので、この同世代間の交流の場っていうのはすごく大事だと思いました。ありがとうございます。

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。首里高校の取り組みでした。ありがとうございます。高校生、中学生いいですか？

【沖縄高校生平和ゼミナール：西江 めぐみ】

沖縄高校生平和ゼミナール、中学3年の西江です。沖縄高校生平和ゼミナールでは、学校の枠を超え平和学習サークルです。今高校生10名くらいで活動しています。沖縄戦や基地問題を学びながら、全国各地の平和ゼミナールと協力して、日本政府に核兵器禁止条約に批准するよう求める署名を行っています。この前、愛楽園にも訪れました。今日のシンポジウムを聞いて印象に残ったことは、同世代が沖縄戦を伝える活動をしていて、私もガイドをやりたいと思いました。私は広島や長崎の全国高校生平和集会に参加して、沖縄戦や基地問題について伝えることを何度か経験しているのですが、沖縄と県外の生徒で情報にかなり差があると感じます。沖縄戦や今ある基地問題があまり知られていなくて、沖縄のことを知らなかったとか、思ったよりひどい状況だと言われるのもっと伝えていきたいです。県外の生徒と友達になることで、沖縄について関心を持ってくれる人が増えたから、友達になることが大切だと思います。この前、被爆者の小谷孝子さんが世界中に友達を作ったと仰っていました。それと同時に、県外の人に限らず県内の友達も知らない人が多いと感じます。資料館に訪れる人は興味がある人だと思うので、資料館やこのようなシンポジウムに来ない人や、そもそも興味のない人にどうやって伝えていこうか課題だと思います。沖縄戦を自分事にして考えるには、今ある問題に結びつけることが大事だと思います。私が活動できている理由が、今軍拡が進んでいて、戦争が密かに隣り合っているのを感じたからだと思うからです。今に結びつけることで、過去のことから今の自分こととして考えることができると思っています。平和ゼミナールをサポートしている平和ガイドの先生がよく、平和の最大の敵は無知、沖縄戦を継承することは沖縄に生まれた私たちの宿命であり責任である、と仰っています。南星中や向陽高校の皆さんように、私ももっと学習をして沖縄戦を継承し伝えようと思いました。

向陽高校教諭
妻夫木 麻紀子首里高校
平田 菜乃華高校平和ゼミナール
西江 めぐみ

【進行：北上田 源】

はい、ありがとうございます。もう今のね会場からの話で言っても、もう次にすぐにいろんな交流ができそうだなっていう気もします。こういう形で繋がることができて、すぐにいい機会になったかなと思っています。最後に何ですけど、私の方から、ぜひ高校生の皆さんとか中学生の皆さん、あるいは大学生の皆さんにお伝えしたいじゃないですけど、言いたいのが、こういう取り組みって時間かかるんですよ。すごく時間かかるんです。それもあから時間かけてやってくださってということ。例えば、中高生であれば、進学だったり、就職だったり、あるいは大学生もそうですね。その時にけど、いろんな状況変わった時にできなくなるって、やりづらくなることってあるんですよ。けど、あんまりその時できなくなっても、あんまりこうなんて言うの、だめだと思わなくていいと思うので、例えば、仲間さんだて、関西の大学行って、その中でもなんかやろうっていうことでやるじゃないですか。だからそんなにすぐに成果出ないかもしれない。今日頑張ってくださるけど、この後も続けるの大変かもしれないけど、ずっと取り組んでほしいなと思っています。もしだから1回できなくなっても、今度また、こんなにたくさん資料館もあって、多分皆さんが大きくなった頃にもありますよ。絶対8館、大丈夫ですよ。絶対ありますんで、ぜひそういう形で、今後もこの8館の取り組み、繋がりが、他の人たちも大きくなった後も、次の若い人たちも含めて繋がっていくような取り組みになればいいなと願っています。はい、これで第2部のパネルディスカッションの方を終わりにしたいと思います。参加された、話をしてくれた皆さん、そして会場の皆さん、ありがとうございました。

質疑応答

質問① 対馬丸記念館

8月16日、17日に宮本亜門さん演出の舞台公演を見に行きました。平和敬子さんの壮絶な体験を基に描かれた舞台は、平和への強い思いと生きることの素晴らしさ、平和の大切さを感じられた素晴らしい舞台でした。対馬丸記念館の今後の取り組みや子供たちへの学びの活動についての展望を聞かせてください。

【対馬丸記念館：平良 次子】



こんにちは、対馬丸記念館の平良です。8月にですね、今説明がありましたが、宮本亜門さん演出の舞台をおかげさまでたくさんの方々に見てもらえたんですが、それは生存者、子供である生存者が頑張って生きよう生きようとした体験談を基に、現代の子供たちにも生きようという力を分けたい、こう表現したいという風なことがテーマでできたものでした。それで色々な方の意見も頂きまして、沖縄戦を伝えるには甘かったんじゃないかとか、もっと突っ込みはとか色々な意見ありましたけれども、そういう疎開船に乗って体験した子供が死にたくない、生きよう生きようとした姿をみんなに見てもらおうということがテーマで、元気が出たとか、元気な子供たちのダンスを見て未来が見えたとか、そんな感想もあったのでそういう風に見て頂いてありがたいです。

.....

今日は大変勉強になりました。ありがとうございました。

質問② 沖縄県平和祈念資料館

戦後80年を迎いリニューアルを予定していると伺いました。詳細が知りたいので教えてください。

【沖縄県平和祈念資料館：大城 友恵】



はい、ありがとうございます。沖縄県平和記念資料館の大城と申します。今回、当館が取り組んでいるリニューアルについてのご質問ありがとうございました。展示更新につきましては、令和6年度に監修委員会を立ち上げまして、戦前時代、戦前、戦中時代部会、戦後時代部会、それから平和学習発信部会、また八重山平和記念会部会を立ち上げて検討を進めています。令和6年1月に基本構想、そしてちょうど今年、今月の6日に基本計画を策定したところです。

.....

皆様、どうぞリニューアルオープンの際には、来館していただきたいと思います。ありがとうございました。

質問③ 佐喜真美術館

長期休館となった埼玉県の丸木美術館の作品を移送して展示するなどの計画はあるでしょうか。日本全国あるいは世界に向けて広報活動されることを期待したいのですが、広島や長崎の原爆資料館と連携し、沖縄でも原爆の被害がわかるような展示や、逆に広島、長崎でも沖縄戦の展示などをしてもらいたいと思っています。

【佐喜真美術館：佐喜真 道夫】



このことは今考えているところです。丸木美術館と佐喜真美術館というのは兄弟の美術館のようなものですから、以前交換展やりました。それから丸木さんの絵は世界中から注文が来ました。核時代に突入した時代に核爆弾を落としてきたらどうなるのか。国名に書いてありますから、見たい観たい人が全国、全世界から注文が来たんですね。それに応じて丸木さんの原爆図は世界中回りました。回ったらどうなったかと言いますとね、これは大変な賛否両論の渦の中を回ったんですね。核時代を考えたい人から、よくぞこういう絵を描いて教えてくれました。

.....

丸木美術館の交流で、今年一年半ぐらい向こうで、その休館しますけども、今は丸木美術館も非常に忙しいんですね。全国のあちこちから注文が来ますので、そういう中で実現したいと思っております。以上でございます。

質疑応答

質問④ 不屈館

先日、福島浜通りの中間貯蔵施設にある汚染度の再利用や、県外最終処分について方針が出されました。沖縄の方々が、このことをどのように受け止めておられるのかを伺いたいです。沖縄における先の戦争や、その後の基地問題と、福島原発問題との間には、どこか通底するものがあるように感じるので、沖縄の方々の受け止め方を知りたいです。

【不屈館：久保田 美奈穂】



不屈館の久保田です。沖縄の方々がいうことでしたが、この問題は色々な意見があると思うので、私の考えとさせていただきます。私は福島第一原発事故が原因で、沖縄に来て14年が経ちました。両方の当事者として感じることは、どちらも国のあり方が問われていると思っています。地域の人々が国の方針によって大きな負担を背負わされています。福島では原発事故の後に出た除染土を公共事業に使う方針が進められていますが、放射性物質というものは、たとえ数値上安全とされていても、本当に大丈夫なものなのか、子供に影響はないのか、という疑問や不安が生まれるのは自然なことだと思います。

.....

沖縄と福島の問題は、これからの日本がどんな社会を目指すのかを映す鏡だと思います。ありがとうございました。

質問⑤ ヌチドウタカラの家

1つ目が資料保管や解説版の設置など、今後施設のアップデートはお考えですか？そして2つ目が、今後8館の連携及び8館と学校現場との連携を進める上での課題について教えていただけますか？

【ヌチドウタカラの家：渡嘉敷 紘子】



はい、渡嘉敷です。ご質問ありがとうございます。資料保管につきましては、2002年から阿波根昌鴻資料調査会というものが立ち上がっておりまして、年に2回調査を行っています。その中で資料保管というもやってまして、劣化の激しいものですかは、随時保管をして行ってもらっている形です。解説版の設置、アップデートということなんですけれども、資料館、現状の資料館の内容を変えることは考えておりません。資料館は阿波根昌鴻さんが自分でガイド案内をすることを想定して、あの内容で、あの並び方をしています。私たちはそれをどう繋いでいくのかということを考えています。とは言え、分かりにくいのかな、ということがあったかなというので、ブックレット、それを補助するようなブックレットが最近支援者の方が作ってくださったりですか、その資料調査会の中で肉声の阿波根さんの肉声テープが発見されて、その肉声テープを展示ごとに、QRコードで読み込めるようにしたりとか、そういった工夫はしています。

.....

ありがとうございました。

クロージング

2025年 沖縄慰霊の日 平和の詩

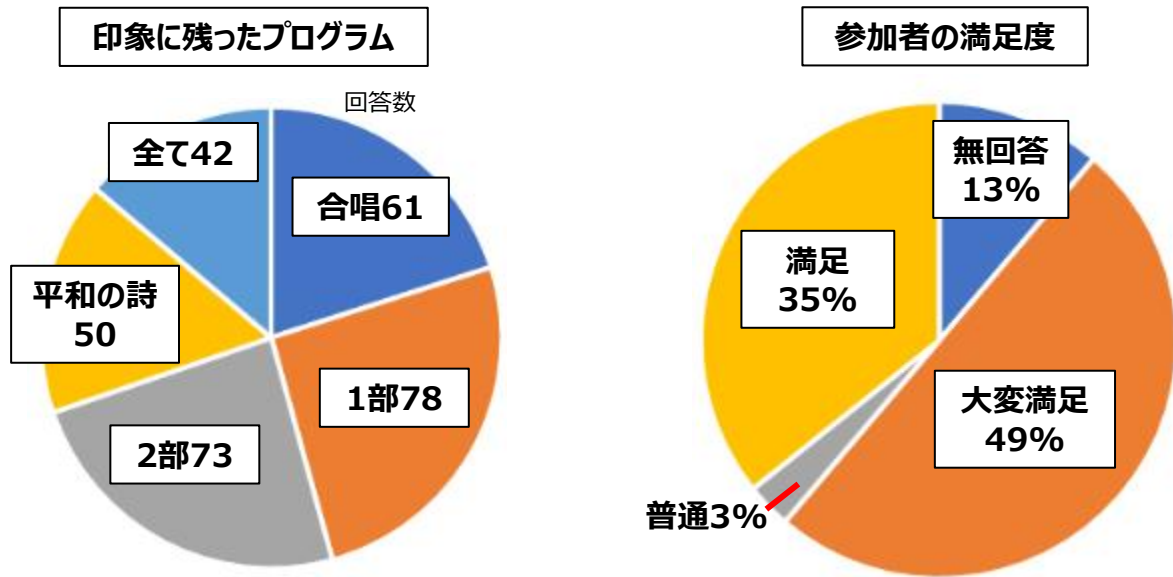
「これから」 仲間 友佑

「これから」

短い命を知ってか知らずか 蝉（せみ）が懸命に鳴いている
冬を知らない叫びの中で 僕はまた天を仰いだ
あの日から八十年の月日が 流れたという 今年十九になった僕の 祖父母も戦後生まれだ
それだけの時が 流れたというのに
あの日 短い命をしるはずもなく 少年少女たちは 誰かが始めた争いで
大きな未来とともに散って逝った
大切な人は突然 誰かが始めた争いで 夏の初めにいなくなった
泣く我が子を殺すしかなかった 一家で死ぬしかなかった 誰かが始めた争いで
常緑の島は色を失（な）くした 誰のための誰の戦争なのだろう
会いたい、帰りたい
話したい、笑いたい
そういくら繰り返そうと 誰かが始めた争いがそのすべてを奪い去る
心に落ちた 暗い暗い闇はあの戦争の副作用だ
微（かす）かな光さえも届かぬような 絶望すらもないような
怒りも嘆きも失くしてしまいそうな 深い深い奥底で
懸命に生きてくれた人々が 今日を創った 今日を繋（つな）ぎ留めた
両親の命も 僕の命も 友の命も 大切な君の命も すべて
心に落ちた あの戦争の副作用は 人々の口を固く閉ざした
まるで 戦争が悪いことだと 言うてはいけないのだと 口止めするように
思い出したくもないほどの あの惨劇がそうさせた
僕は再び天を仰いだ 抜けるような青空を 飛行機が横切る
僕にとってあれは 恐れおののくものではない 僕らは雨のように打ちつける
爆弾の怖さも 戦争の『せ』の字も知らない
けれど、常緑の平和を知っている
あの日も 海は青く 同じように太陽が照りつけていた
そういう普遍の中にただ 平和が欠けることの怖さを 僕たちは知っている
人は過ちを繰り返すから 時は無情にも流れていくから
今日まで人々は 恒久の平和を祈り続けた 小さな島で起きた あまりに大きすぎる悲しみを
手をつなぐように 受け継いできた
それでも世界はまだ繰り返してる
八十年の祈りでさえも まだ足りないというのなら それでも変わらないというのなら
もっともっとこれからも 僕らが祈りを繋ぎ続けよう
限りない平和のために 僕ら自身のために紡ぐ平和が いつか世界のためになる そう信じて
今年もこの六月二十三日を 平和のために生きている その素晴らしさを囁（か）みしめながら



アンケート集計（一部）



新聞記事

沖縄タイムス 令和7年10月13日（月）朝刊

琉球新報 令和7年10月13日（月）朝刊



業務2

県内バスツアーの実施

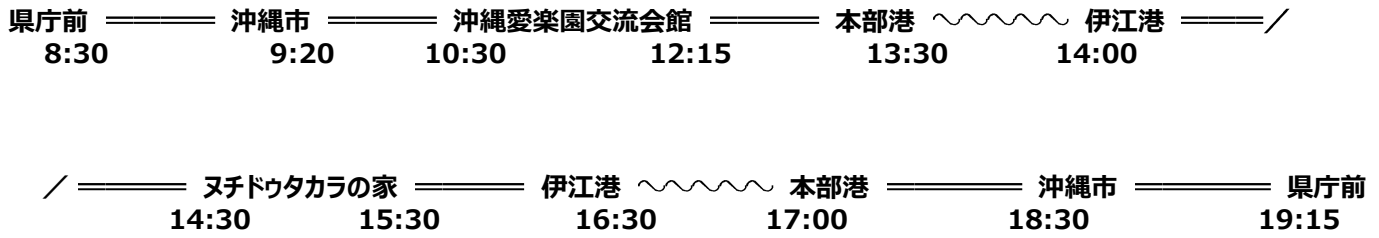
第1弾バスツアー（令和7年8月24日実施）

第2弾バスツアー（令和7年11月30日実施）

第3弾バスツアー（令和7年12月20日実施）

第1弾バスツアー 北部エリア コース

■行程内容



凡例 : ——— 貸切バス ~~~~~ 船舶

利用バス会社 : ていーだ観光バス 大型 53名乗 (正シート45席)

利用船舶 : 伊江島フェリー

昼食 : 事前注文 または 持参弁当

案内チラシ

～沖縄戦の記憶、沖縄のこころを継承する～

沖縄県 平和関連施設をめぐる 第1弾バスツアー

【訪問施設】
沖縄愛楽園交流会館 (名護市)
ヌチドゥタカラの家 (伊江村)

お申込みフォーム
事前予約制

■行程内容 ※沖縄市乗降の希望者は名護、沖縄北方運動公園 (予定) 経由
県庁前 == (沖縄市) == 沖縄愛楽園交流会館 == 本部港 ~~~ /
8:30 9:20 10:30 12:15 13:30

~~~~ 伊江港 == ヌチドゥタカラの家 == 伊江港 ~~~ 本部港 == /  
14:00 14:30 15:30 16:30 17:00

※各施設では、施設職員より、展示内容等の説明があります  
※当日の交通事情により変更の可能性がございます  
凡例 : ——— 貸切バス    ~~~~~ 船舶  
(予約受付先: ていーだ観光バス 予約電話: 伊江222-1) 【食事: 朝食×、昼食OP、夕食×】

■日程 : 8/23(土) 日曜日

■旅行代金 : 0円 (施設入館料、昼食代は別途必要)  
【旅行代金に含まれるもの: バス車両・ガイド費用、船運費用、車両費用】  
※施設入館料は当日現地精算 (沖縄愛楽園交流会館: 無料、ヌチドゥタカラの家: 大人300円、小中高校生200円)  
※昼食はご持参いただくか、オプションとしてご注文いただくか、どちらかお選びください。

■集合場所 : 県庁前観光バス乗降場所

■集合時間 : 8:20

■募集人数 : 30名 (申込多数の場合は抽選)  
※最小催行人員: 1名  
※15歳未満の方は、保護者の同伴が必要です

■添乗員 : 同行いたします

■申込受付期間 : 7/22(火) ~ 8/11(月)  
※申込状況により延長の可能性あり

※昼食オプション (当日集金) 5,000円/30名  
1. プレミアムバーガーセット (お一人2,000円税込)  
古下料理店のシャクマイー、ハンバーガー、ポテト、ソフトドリンクのセット  
2. OHANA特製お弁当 (お一人1,000円税込)  
屋敷地蔵OHANA、日替わり弁当、ドリンクのセット

【旅行企画・実施 / お申し込み・お問い合わせ】  
東武トップツアーズ株式会社



配布・案内箇所 : 平和関連施設8館、県庁ホームページ、バスツアーに関心のある方 (第1回シンポジウムを通じ)

申込人数 : 123名

当選者数 : 40名

## 第2弾バスツアー 中部・南部エリア コース

### ■ 行程内容

|      |      |          |      |              |       |            |      |       |
|------|------|----------|------|--------------|-------|------------|------|-------|
| 沖繩市  | ==== | 県庁前      | ==== | 平和祈念公園（平和の礎） | ..... | 沖繩県平和祈念資料館 | ==== | /     |
| 9:00 |      | 9:45     |      | 10:30        |       | 11:00      |      | 12:00 |
| /    | ==== | 八重瀬町（昼食） | ==== | 佐喜真美術館       | ====  | 不屈館        | ==== | 県庁前   |
|      |      | 12:10    |      | 13:00        |       | 13:40      |      | 15:00 |
|      |      |          |      |              |       | 15:40      |      | 16:40 |
|      |      |          |      |              |       |            |      | 16:50 |
|      |      |          |      |              |       |            |      | 17:40 |

凡例：==== 貸切バス ..... 徒歩

利用バス会社：中部観光バス 大型 59名乗（正シート49席）

昼食：上江門そば または 持参弁当

### 案内チラシ

～ 沖縄・平和と人権博物館ネットワークの8館が連携～

## 沖縄県 平和関連施設をめぐる 第2弾バスツアー

【訪問施設】  
 沖縄県平和祈念資料館（糸満市）  
 佐喜真美術館（宜野湾市）  
 不屈館（那覇市）

■ 日程：11/30（日） 日帰り  
 ■ 旅行代金：大人 1,700円・大学生 1,250円・高校生 1,150円・中学生 1,050円（税込）  
 ・小人 650円・シニア（70歳以上） 1,500円（当日集金、昼食代は別途必要）

【旅行代金に含まれるもの：バス車両・ガイド費用、通常施設入館料（\*参加者20名以上の場合は団体料金の適用あり）、添乗員費用】  
 ※昼食（当日集金、ご希望のみ）：1,500円税込（古民家食堂 上江門そば）  
 （持参の方は、バス車内でお取扱いいたします。）

■ 集合場所：沖繩市（コザ運動公園）・那覇市（県庁前）  
 ■ 集合時間：沖繩市 8:50 ・那覇市 9:40  
 ■ 募集人数：35名（申込多数の場合は抽選）  
 ※最少催行人員：1名  
 ※15歳未満の方は、保護者の同伴が必要です。  
 ■ 添乗員：同行いたします  
 ■ 申込受付期間：10/24（金）～ 11/20（木）

申込フォーム 事前予約制  
<https://forms.gle/W5nD9L8MkxwZyU9>

■ 行程内容 [食事：朝食・昼食・夕食・]  
 沖繩市 == 那覇市 == 平和祈念公園（平和の礎・平和祈念資料館） == 八重瀬町（昼食） == /  
 9:00 9:45 10:25 12:00 12:10 12:10 13:00  
 / == 佐喜真美術館 == 不屈館 == 那覇市 == 沖繩市  
 13:40 15:00 15:40 16:50 17:00 17:40

※バスが貸切です。  
 ※佐喜真美術館、不屈館は施設での説明があります。  
 ※沖縄県平和祈念資料館は自由見学となります。  
 ※当日の交通事情により、最終目的地変更の可能性がございます。  
 【凡例：==== 貸切バス（バス会社：中部観光バス）】

【旅行企画・実施／お申し込み・お問い合わせ】  
 奥武トップツアーズ株式会社



配布・案内箇所：平和関連施設8館、県庁ホームページ、バスツアーに関心のある方（第1回シンポジウムを通じ）

申込人数：72名

当選者数：45名

## 第3弾バスツアー 南部エリア コース

### ■ 行程内容

沖縄市 8:40 ——— 県庁前 9:30 ——— 南風原文化センター 10:00 …… 南風原20号塚 12:10 ——— 琉球の館 (昼食) 12:40 …… /  
 / …… ひめゆり平和祈念資料館 13:40 ——— 対馬丸記念館 15:00 ——— 県庁前 15:40 ——— 沖縄市 16:50 ——— 17:00 ——— 18:00

凡例 : ——— 貸切バス …… 徒歩

利用バス会社 : ていーだ観光バス 大型 59名乗 (正シート49席)

昼食 : 琉球の館 または 持参弁当

### 案内チラシ

高25-129 ~ 沖縄・平和と人権博物館ネットワークの8館が連携 ~

## 沖縄県平和関連施設をめぐる 第3弾バスツアー

訪問施設 1

南風原文化センター  
(南風原町)



訪問施設 2

ひめゆり平和祈念資料館  
(糸満市)



訪問施設 3

対馬丸記念館  
(那覇市)



■ 日程 : 12/20 (土) 日帰り

■ 旅行代金 (当日集金) :

大人 1,550円 ・ 高校生 950円 ・ 中学生 750円 ・ 小学生 500円 (税込)

【旅行代金に含まれるもの】 ※南風原町民は、大人1,150円、高校生600円、中学生500円、小学生300円

バス車両・ガイド費用、添乗員費用、通常施設入館料

■ 集合場所 : 沖縄市 (コザ運動公園) ・ 那覇市 (県庁前)

■ 集合時間 : 沖縄市 8:30 ・ 那覇市 9:15

■ 募集人数 : 35名 (申込多数の場合は抽選)

※最少催行人員 : 1名  
※15歳未満の方は、保護者の同伴が必要です。

■ 添乗員 : 同行いたします

【申込フォーム】

12/11 (水) 締切



【行程内容】 [食事・朝食・昼食・夕食]

沖縄市 8:40 ——— 那覇市 9:30 ——— 南風原20号塚・南風原文化センター 10:00 ——— 糸満市 (昼食) 12:40 …… /  
 / …… ひめゆり平和祈念資料館 13:40 ——— 対馬丸記念館 15:00 ——— 那覇市 15:40 ——— 沖縄市 16:50 ——— 17:00 ——— 18:00頃

[凡例 : ——— 貸切バス, …… 徒歩]

※旅行代金は別途必要 (ご希望者のみ) : 1,320円税込 (琉球の館) 当日集金となります。  
 ※持参弁当の方は、バス車内でお取り立ていたします。  
 ※和服バス会社 : ていーだ観光バス  
 ※バスガイドが乗務します。  
 ※集合場所は、乗員の届出があります。  
 ※当日の交通事情により、始発時刻の変更の可能性がございます。  
 ※この旅行には、全参加者に対して次の高野の損害保険を沖縄県民サービスで付しております。  
 日帰り行事参加者保険 (死亡・後遺障害保険金額1,000万円、入院保険金日額4,800円、通院保険金日額3,000円)

【旅行企画・実施/お申し込み・お問い合わせ】

東武トップツアーズ株式会社 沖縄支店  
 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地1丁目12-12 (コザイノベーションビル10階)  
 TEL:090-9001-9778 FAX:098-868-8842  
 営業日・営業時間/月~金 9:30~17:30 (休業日:土・日・祝日) MAIL: okinawa.helwa.network@gmail.com

事業企画: 沖縄県 平和・地域外交推進課 (平和関連施設ネットワーク構築事業)  
 協力: 沖縄・平和と人権博物館ネットワーク

旅行業務取扱管理者による募集説明会(琉球の館)での申し込みとなります。この旅行の予約に  
 関し、担当者より説明に不明な点がある場合は、高野の旅行業務取扱管理者までお問い合わせください。

詳しくは旅行業務取扱管理者にお電話ください。  
 ※予約・キャンセルは旅行業務取扱管理者までお問い合わせください。

一般社団法人日本旅行業協会 正会員  
 中小企業振興 旅行業 登録



配布・案内箇所 : 平和関連施設8館、県庁ホームページ、バスツアーに関心のある方 (第1回シンポジウムを通じ)

申込人数 : 49名

当選者数 : 42名

## 業務3

# パネルの製作

## 製作概要

- ・ 平和関連施設（8施設）を1枚のパネルで紹介（A1、自立式パネル）
- ・ 1枚のパネルで1施設を紹介（A1、自立式パネル）  
（イベント、公共施設又は関係団体から要望に応じた貸出用）



8施設紹介パネル



1施設紹介パネル

## 設置の様子



ヌチドゥタカラの家



沖縄愛楽園交流会館



佐喜眞美術館



対馬丸記念館



不屈館



南風原文化センター



ひめゆり平和祈念資料館



沖縄県平和祈念資料館



第2回平和シンポジウムでの展示（2025年10月12日）



沖縄県平和祈念資料館での展示（2026年2月8日）

## 業務4

# スタンプラリーの開催

## 開催期間

2025年8月23日（土）～ 2026年2月28日（土）

## 各施設スタンプ

ヌチドゥタカラの家



沖縄愛楽園交流会館



佐喜眞美術館



対馬丸記念館



不屈館



南風原文化センター



ひめゆり平和祈念資料館



沖縄県平和祈念資料館



## 達成記念品

(6個以上のスタンプ)

さんぐわーストラップ  
(沖縄のお守り)

## スタンプ台紙



## ポップ



## 記念品お渡し状況

| 施設名         | 記念品お渡し数 |
|-------------|---------|
| ヌチドゥタカラの家   | 1       |
| 沖縄愛楽園交流会館   | 6       |
| 佐喜眞美術館      | 17      |
| 対馬丸記念館      | 16      |
| 不屈館         | 16      |
| 南風原文化センター   | 8       |
| ひめゆり平和祈念資料館 | 9       |
| 沖縄県平和祈念資料館  | 13      |
| 合計          | 86      |

## 業務5

### 自主提案

平和関連施設ガイドブックの制作

特設WEBサイトの開設

## 平和関連施設ガイドブックの制作

平和関連施設8館の情報を掲載したガイドブックを500部発行

- ・ 第2回平和シンポジウム 200部配布
- ・ 平和関連施設をめぐる各バスツアー 120部配布
- ・ 各施設、関係者 180部配布



|                                                                           |                                                        |                                                                              |                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 ステッドカカラの家</b></p> <p>伊江島の戦中-戦後の土地闘争の証拠品や写真を展示し、戦争の本質や原因を学ぶ資料館</p> | <p><b>2 沖縄愛楽園交流会館</b></p> <p>命を大切にできる豊かな未来を創造するために</p> | <p><b>3 佐喜真美術館</b></p> <p>丸水仙堂・丸水家の「沖縄戦の証」を中心にアートの方で平和を創造する「静かにももの静う」美術館</p> | <p><b>4 不屈館</b></p> <p>平和と民主主義のためにたたかいた継いだ<br/>琉球電気師と沖縄の民衆の歩みを次世代に伝える資料館</p> |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                         |                                                                          |                                                                                          |                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>5 対馬丸記念館</b></p> <p>対馬丸事件を通して<br/>対馬丸の子と私たちについて考え、海の戦争を伝える博物館</p> | <p><b>6 南風原文化センター</b></p> <p>高風原に想がした戦争で知り、陸軍病院で感じる<br/>「五感」で平和を学ぶ場所</p> | <p><b>7 ひめゆり平和祈念資料館</b></p> <p>10代のひめゆりの女性の視点で戦場の実相を伝える資料館<br/>ひとりひとりの姿と声が多感者に語りかけます</p> | <p><b>8 沖縄県平和祈念資料館</b></p> <p>八重山<br/>平和<br/>祈念館</p> <p>沖縄県民の戦争体験から歴史的教育を受け、<br/>戦後から現在までの基盤に継ぎ、未来を展望する施設</p> |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 特設WEBサイトの開設

特設WEBサイトを開設し、各種情報を発信 <https://okinawa-heiwa-network.com/>

沖縄県平和関連施設ネットワーク構築事業 特設ページ

施設概要 シンポジウム バスツアー スタンプラリー



# OKINAWA NO KOKORO

みんなで継承する  
沖縄のこころ。

沖縄戦の記憶と平和を希求する「沖縄のこころ」を私たちはどう語り、どう伝えていくのか。

今を生きる一人ひとりが向き合い、共に考え、共に継承していくために沖縄県内の平和関連施設が連携し、平和を発信する取り組みをはじめました。

### 沖縄の平和をつなぐ8つの施設

「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」を構成する8施設をご紹介します。各施設では沖縄戦と戦後の歴史に焦点を当て「平和・人権」に関する展示や企画を行っています。



**ヌチドッカカラの家**

戦中・戦後の土地闘争の証品や写真を展示し、戦争の本質や原因を学ぶ資料館です。



**沖縄愛楽園交流会館**

ハンセン病と向き合った人々の歴史や暮らし、尊厳を伝え、差別や偏見のない社会について考える資料館です。



## 総 評

## ■ 事業概要

本事業では、県内の平和関連8施設が連携し、2回のシンポジウム、3回に分けたバスツアー、スタンプラリーの開催、および各施設の紹介パネルの製作を実施した。また、自主提案として「8施設紹介ガイドブック」の作成や特設WEBサイトの開設も行い、事業全体の周知と効果の最大化を図った。

## ■ 各取り組みの成果

### (1) シンポジウムの開催

第1回：8施設が初めて一堂に会する場として注目を集め、多数の来場者を迎えた。

各施設の役割を共有し、次世代への継承をテーマに議論を深めることで、これまでにない「横のネットワーク構築」の第一歩となった。

第2回：関連団体を中心に、平和活動に取り組む学生、学校教員、施設学芸員によるディスカッションを実施。それぞれの立場から沖縄戦や平和継承について語り合い、学生の熱意や視点が大人たちに新たな気づきを与える有意義な機会となった。

### (2) バスツアーの実施

全3回すべてで定員を上回る応募があり、大変人気の企画となった。特に第1弾の伊江島「ヌチドゥタカラの家」訪問は定員の約3倍の応募が殺到した。

各施設では館長や学芸員による熱心で丁寧な解説が行われ、時間が足りなく感じるほどの充実した内容となった。いっぽうで、抽選に漏れた方への課題は残り、今後のバスツアー計画に検討の余地がある。

### (3) パネル製作

8施設全体の概要パネルと各施設の個別パネルを製作。

戦後80周年企画展や各取り組みを紹介し、各施設やイベント等で展示した。これが来館者に「次の施設」を紹介する相互送客の効果を生み、連携を強くアピールできた。

### (4) スタンプラリー

御朱印帳型の台紙を採用して特別感を演出し、全施設周遊への意欲を高めた。

ファミリー層が参加しやすいきっかけとなり、6施設達成者（記念品：さんぐわあーストラップ進呈）は86名となった。達成率は53.7%であったが、新たな施設訪問を促す有効な動機付けとなった。

### (5) 広報物

自主提案の「ガイドブック」は参加者や各施設へ配布し、今後の連携事業でも活用できる価値あるツールとなった。特設WEBサイトでは本事業の全情報を集約・発信することができた。

■ 事業実施後の各施設の入館者数比較

| 施設名         | 2024年<br>7月～12月 | 2025年<br>7月～12月 | 増減数    | 増減率      |
|-------------|-----------------|-----------------|--------|----------|
| ヌチドゥタカラの家   | 1,223名          | 2,129名          | 906名   | 42.56% 増 |
| 沖縄愛楽園交流会館   | 2,182名          | 2,510名          | 328名   | 13.07% 増 |
| 佐喜眞美術館      | 10,799名         | 17,725名         | 6,926名 | 39.07% 増 |
| 対馬丸記念館      | 13,763名         | 16,934名         | 3,171名 | 18.73% 増 |
| 不屈館         | 899名            | 1,076名          | 177名   | 16.45% 増 |
| 南風原文化センター   | 8,192名          | 8,450名          | 258名   | 3.05% 増  |
| 南風原20号壕     | 4,017名          | 4,446名          | 429名   | 9.65% 増  |
| ひめゆり平和祈念資料館 | 216,513名        | 221,117名        | 4,604名 | 2.08% 増  |
| 沖縄県平和祈念資料館  | 163,324名        | 164,429名        | 1,105名 | 0.67% 増  |

戦後80年の節目の年ということもあり、各施設の来館者は前年同時期と比べて軒並み増加し、「ヌチドゥタカラの家」で約42%増、「佐喜眞美術館」で約39%増、「対馬丸記念館」で約18%増、「不屈館」で約16%増となりました。

■ 8館ネットワークの課題

1. ネットワーク構築の課題

これまでは各施設が単独で活動していた状態（点）から、今回の8館のネットワークとしての共有や活動が、「線」として繋がり、それを維持し、さらに「面」へと広げていくために、「定期的な情報共有の仕組みが必要である。また、多くの施設で平和学習の伝承を担う体験者の高齢化が進んでおり、いかにして学生や若手学芸員といった「次世代の担い手」にその役割を引き継いでいくかが課題である。

2. イベント・事業実施における課題

3回実施したバスツアーは、毎回抽選を行うほどの高い人気があった一方で、抽選に漏れた方への対応は課題が残った。また、今後の組織運営に関して、バスツアーの経費予算は、実務的な課題としてあります。さらには、パネルディスカッションでも議論されていた、平和教育の内容がルーティン化してしまうという懸念があり、若い世代にとって「自分事」として捉えてもらうための、対話・参加型プログラムの継続的な取り組みが必要となる。

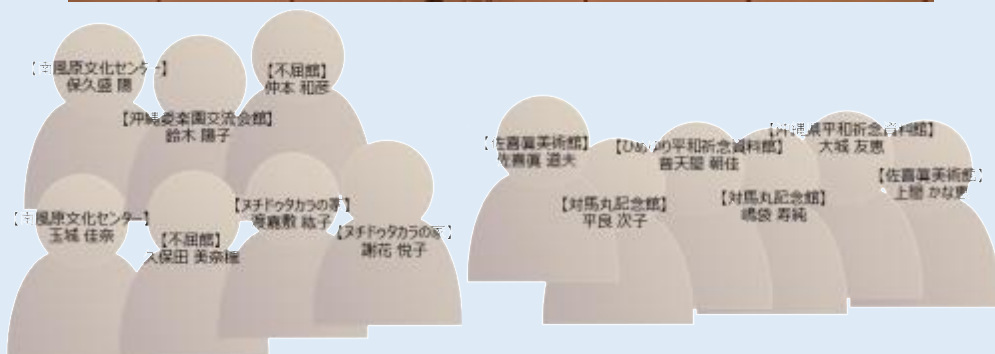
### 3. 継続性と広報の課題

パネル展示やスタンプラリーの実施により、「次の施設」を紹介する相互送客効果は出ており、これを一過性のブームで終わらせないための継続的な広報戦略が必要です。また、県内の訪問者を増やすための継続的な広報活動も必要である。さらには、県外の訪問者を増やすため認知度の向上のための活動（シンポジウムなど）、県外平和ミュージアムとの情報共有や連携など、県外活動を見据えた展開を検討する必要がある。

#### ■ 今後の展開・期待

本事業は、8施設がネットワークとして構築され、前年同期比の来館者数は軒並み増加し、事業としての結果は残せた。今後は、線として繋がった8施設が定期的な情報共有を図りながら、平和継承の輪をさらに広げていく、次の段階へのフェーズ移行が以下のように展開・期待される。

- 1、定期的な情報共有の仕組みづくり
- 2、対話型・参加型プログラムの開発
- 3、広報戦略の継続と拡大
- 4、次世代の担い手の育成



ダイジェスト版

令和7年度平和関連施設ネットワーク構築事業共同企業体



東武トップツアーズ株式会社 / 株式会社アドップ

